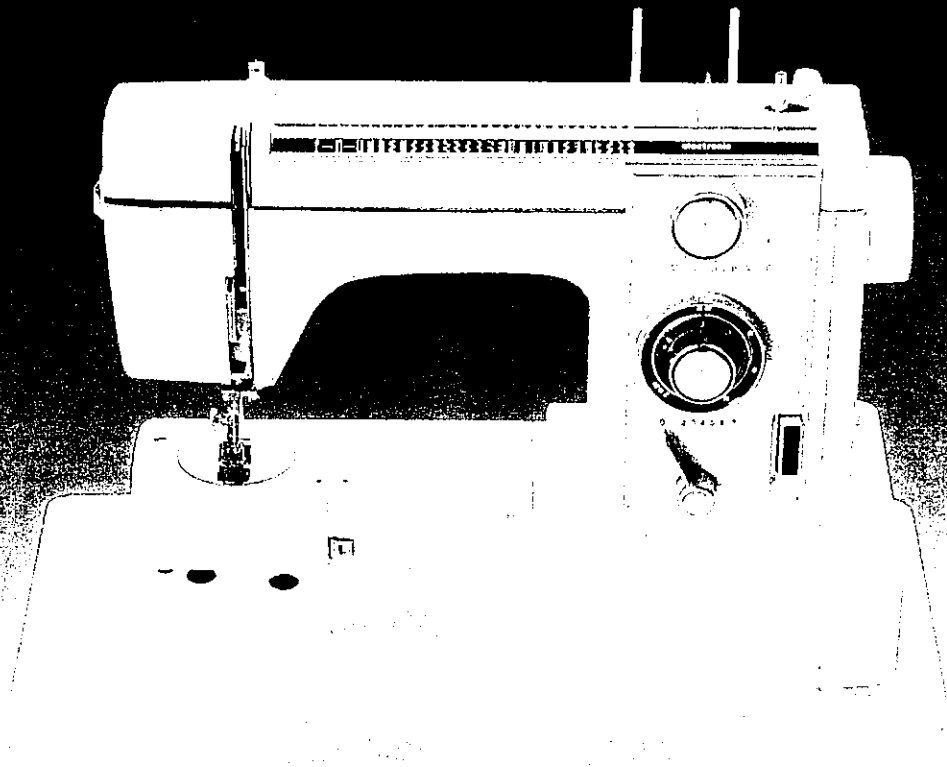


815型フリーアーム《使い方の手びき》



感じるメカニズム

フリーアーム  
815型

ジャンメシシをお買い上げくださいますと、ありがとうございます。  
た。

この《使い方の手びき》をごらんになって、あなたのミシンをお役立  
てください。

また、当社では、《ジグザグ教室》《ホームソーイング教室》を全国  
の直営支店で開講していますので、ぜひ、ご参加ください。

★縫いの速さが電子の働きで高速から低速まで、縫う力を落とさず、  
自在に確実に調節できます。

★実用縫いから装飾縫いまで26種類の縫いがダイヤル一つで簡単に選  
べます。

★模様選択が電子アイで正確に行なえます。

★縫いに適した送りや、振巾などが案内板で一目でわかります。

★ボタン穴かがりが途中一度ダイヤルを押すだけの2ステップで縫い  
あがります。

★かまが開閉式で手入れが容易にできます。

★縫いはじめ、縫いおわりの針上げが、ボタンを押すだけでスピーディ  
ーにできます。

## 1. あらましと準備

●各部の名称	2~3
●ご使用前に	3
●電源のつなぎ方	4
●スライドスイッチ	4
●コントローラーの踏み方	4
●照明ランプのはずし方、つけ方	4
●補助テーブル	5
●ガイドポケット (ステッチガイドと押えポケット)	5
●ステッチガイドの活用	6
●押えポケット	7
●ステッチチャンネル	8
●基線ダイヤル	8
●送りダイヤル	8
●返し縫いボタン	9
●振巾レバー	9
●押え上げ	10
●押えと押えホルダーの はずし方・つけ方	10~11
●針上げボタン	12
●糸調子ダイヤル	12
●押え圧調節つまみ	12
●布と糸と針の関係	13
●下糸の巻き方	14
●ボビンケースとボビンの はずし方・つけ方	15
●上糸の掛け方	16
●下糸の引きあげ方	17
●糸調子の出し方	17

## 2. 基本縫い

●直線縫い	18~19
●ジグザグ縫い	20

## 3. 実用縫い

●裁ち目かがり	21
●ストレッチ(伸縮)縫い	22~23
●ボタン穴かがり(ボタンホール)	24

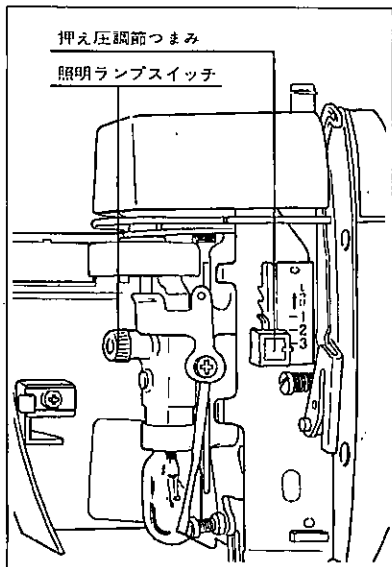
●芯入りボタン穴かがり	25
●くけ縫い(まつり縫い)	26~27
●ファスナーつけ	28~31
●三重縫い	31
●三つ巻き縫い	32
●ボタンつけ	33
●しつけ	34~36
●筒縫い	37

## 4. 装飾縫い

●自動模様縫い	38
●2本針縫い	39
●ピンタック	40
●スカラップ	41
●キルティング	42
●スモッキング	42
●アップリケ	43
●パッチワーク(はぎ合わせ)	44
●レースつけ	44
●ファゴティング	45
●カットワーク	45
●コーディング	46
●広巾コーディング	47
●シェルタック	47
●ギャザーよせ	48
●貝形ふちかがり (ブランケットステッチ)	48
●ドロンワーク	49
●フリンジ縫い	49
●糸を使ったフリンジ	50
●ししゅう	51

## 5. 手入れと調整

●外装の手入れ	52
●送り歯の掃除	52
●かまの手入れ	53
●ミシンの調子が悪い ときの直し方	54~55
●標準付属品	56



※チェーンステッチ糸掛け  
糸巻き糸案内  
スリット天びん  
天板糸みぞ  
糸調子ダイヤル

天板ふた  
ステッチガイド  
中ふた  
押えポケット

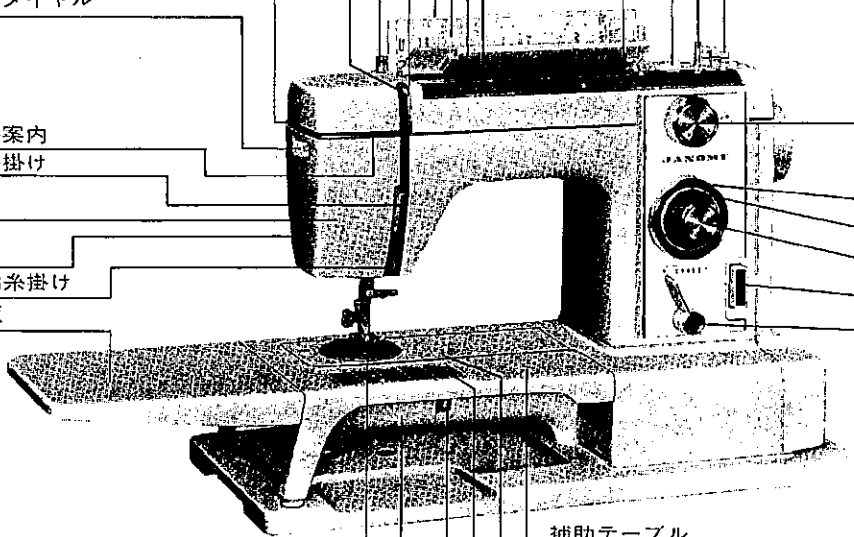
電子アイ  
天板ふたスライドボタン  
糸巻き軸  
ポビン押え

面板糸案内  
面板糸掛け

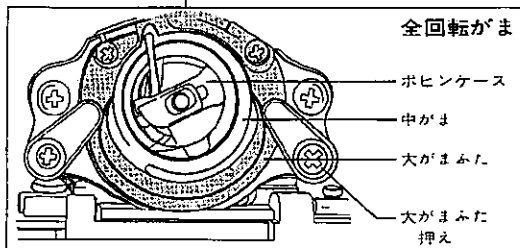
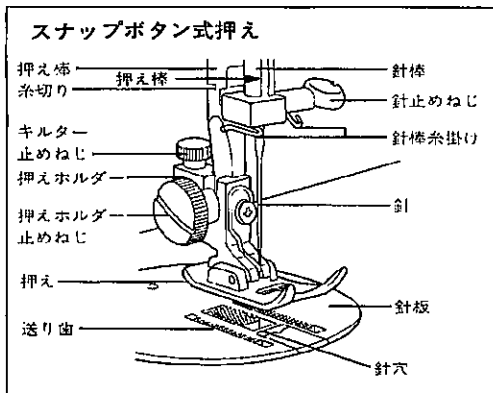
面板  
糸案内糸掛け  
補助板

ステッチチャンネル

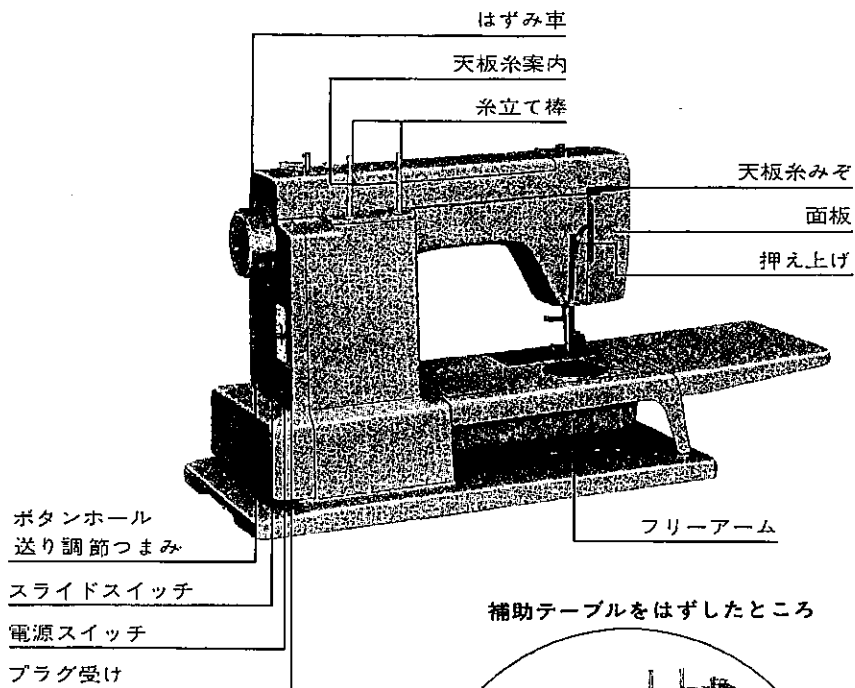
基線ダイヤル  
送りダイヤル  
返し縫いボタン  
針上げボタン  
振巾レバー



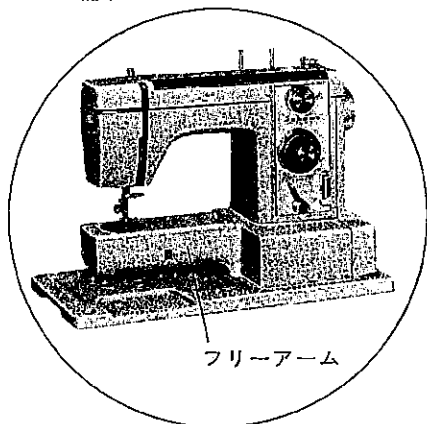
補助テーブル  
定規とりつけ穴  
補助テーブル窓  
ベッドふたボタン



※チェーンステッチ糸掛けは、別売りのチェーンルーバー、チェーンステッチ押えと一緒に使用してください。



補助テーブルをはずしたところ



★よくふきましよう………

ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

★ミシンのセットは確実に………

ダイヤルやレバーをセットしたり、押えや針を交換するときは、ステッチガイドやこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

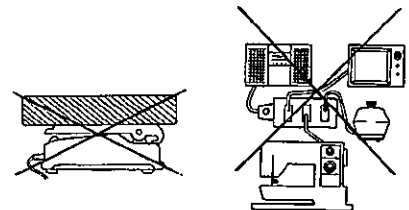
★試し縫いをしてみましょう………

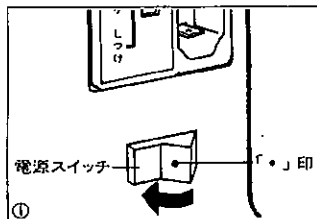
ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★より安全のために………

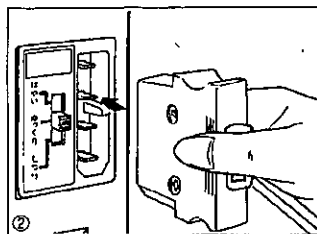
このミシンは、特に安全性に留意して作られています。思わぬ事故や故障を防ぐためにも、つぎの点は特に注意してください。

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
  - 使用後    ■ミシンのそばをはなれるとき
  - 部品をつけたり、はずしたりするとき    ■ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

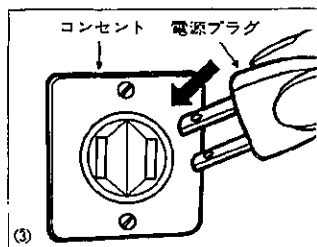




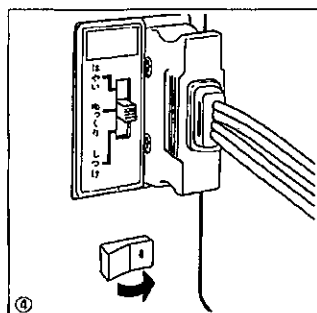
① ミシンの電源スイッチの「●」印のない方を押して、スイッチを切る。



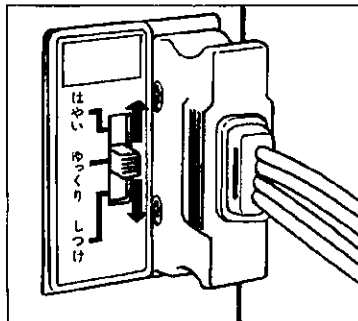
② プラグをミシンのプラグ受けにつなぐ。



③ 電源プラグをコンセントにつなぐ。

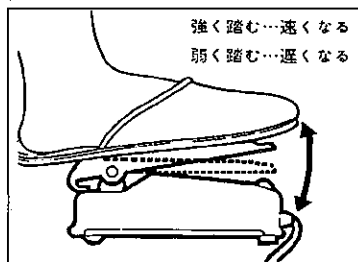


④ ミシンの電源スイッチの「●」印のついた方を押して、スイッチを入れる。

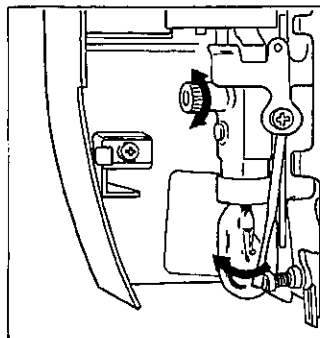


「はい」……………速く縫うとき  
「ゆっくり」……………ゆっくり縫うとき  
「しつけ」……………しつけ専用

※ミシンが動いているときは、スイッチの切りかえをしないでください。  
※「しつけ」から「ゆっくり」に切りかえるときは、一度「はい」に戻してから入れてください。

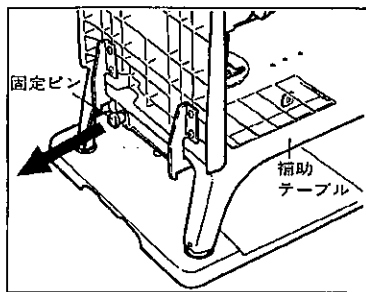


静かに足をかけ、踏み板を踏む。  
コントローラーの踏みかげんで速さを調節する。  
しつけのときは、1針縫って針が止まったら、つま先をあげる。



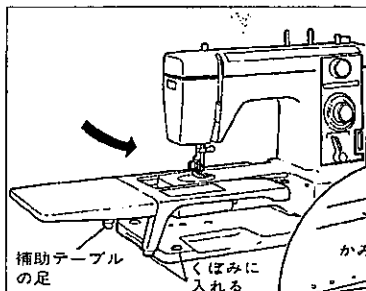
照明ランプは、面板をひらいてスイッチつまみをまわし、点滅する。  
電球のつけ、はずしは、面板をひらいて行なう。  
はずすとき……左へまわす  
つけるとき……右へまわす

※電球(照明用100V—12W)のお求めは、ジャノメ直営支店へ。  
※電球のつけ、はずしのとき、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。



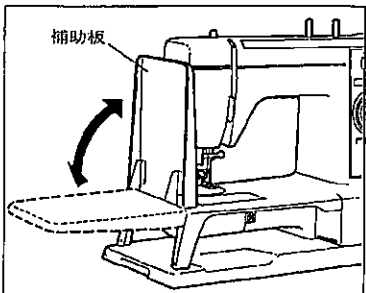
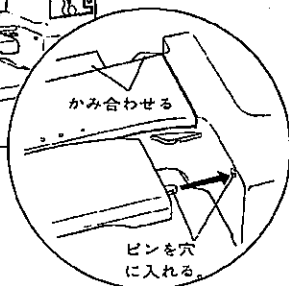
### 《はずし方》

固定ピンを引きながら、少し持ちあげ、横に引いてははずす。



### 《つけ方》

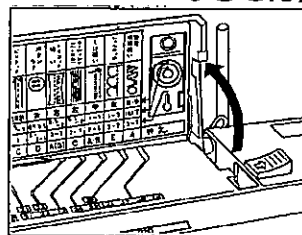
図のようにとりつけ部分をかみ合わせ、足はくぼみに入れる。



※補助板は、矢印のように倒したりおこしたりできます。

ガイドポケットには、縫いの種類に応じたミシンのセットのし方の目安を示したステッチガイドと押えを入れた押えポケットがあります。

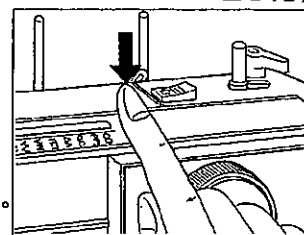
### 《ガイドポケットの ひらき方》



天板ふたスライドボタンは、2段式になっている。軽く右へ押すとステッチガイドがひろく。もう一度押すと、押えポケットがひろく。

※強く押すと、一度で押えポケットがひろくなります。

### 《ガイドポケットの とじ方》



手前の右すみを指で押す。

### 《この手びきを示されたステッチガイドの見方》

使用例……「かがり縫いステッチ」を縫う場合、押え選択ガイドを「かがり縫いステッチ」に合わせる。

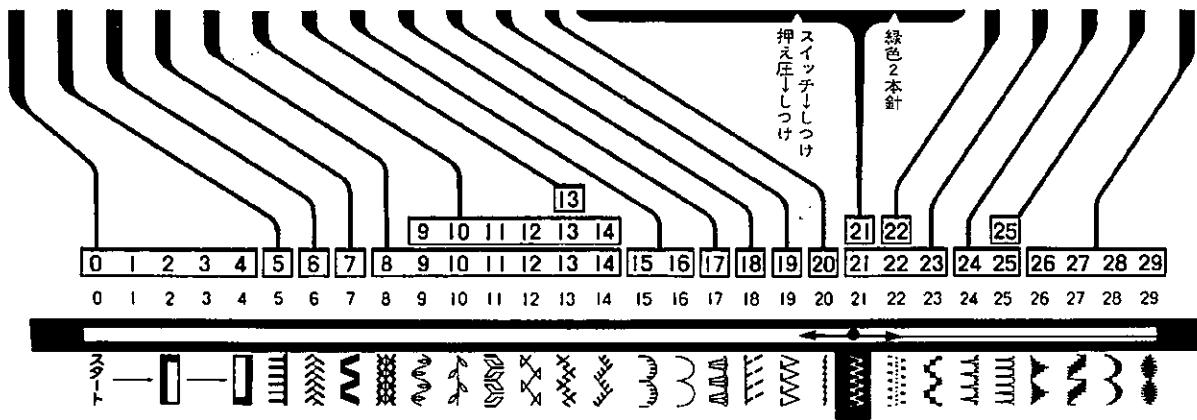
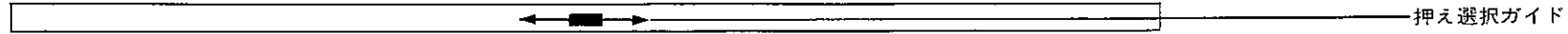
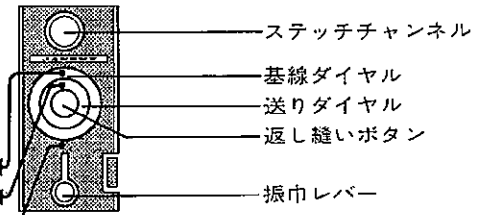
21	——	セットのし方や縫い方は、21ページを参照する。
弱	——	糸調子ダイヤルを弱(0~4)の範囲で選ぶ。
かがり縫い ステッチ		
右	——	基線ダイヤルを「右」に合わせる。
4	——	送りダイヤルを「4」に合わせる。
5	——	振巾レバーを「5」に合わせる。
I	——	中ふたをあげ、押え「I」を出し、押えホルダーにつける。
	——	押え選択ガイドをスライドさせて合わせる。
	——	中ふたの指示線をたどると模様番号がある。
19	——	電子アイを「模様19」に合わせる。

※縫いはじめる前に、このステッチガイドによって、正しくミシンをセットしてください。

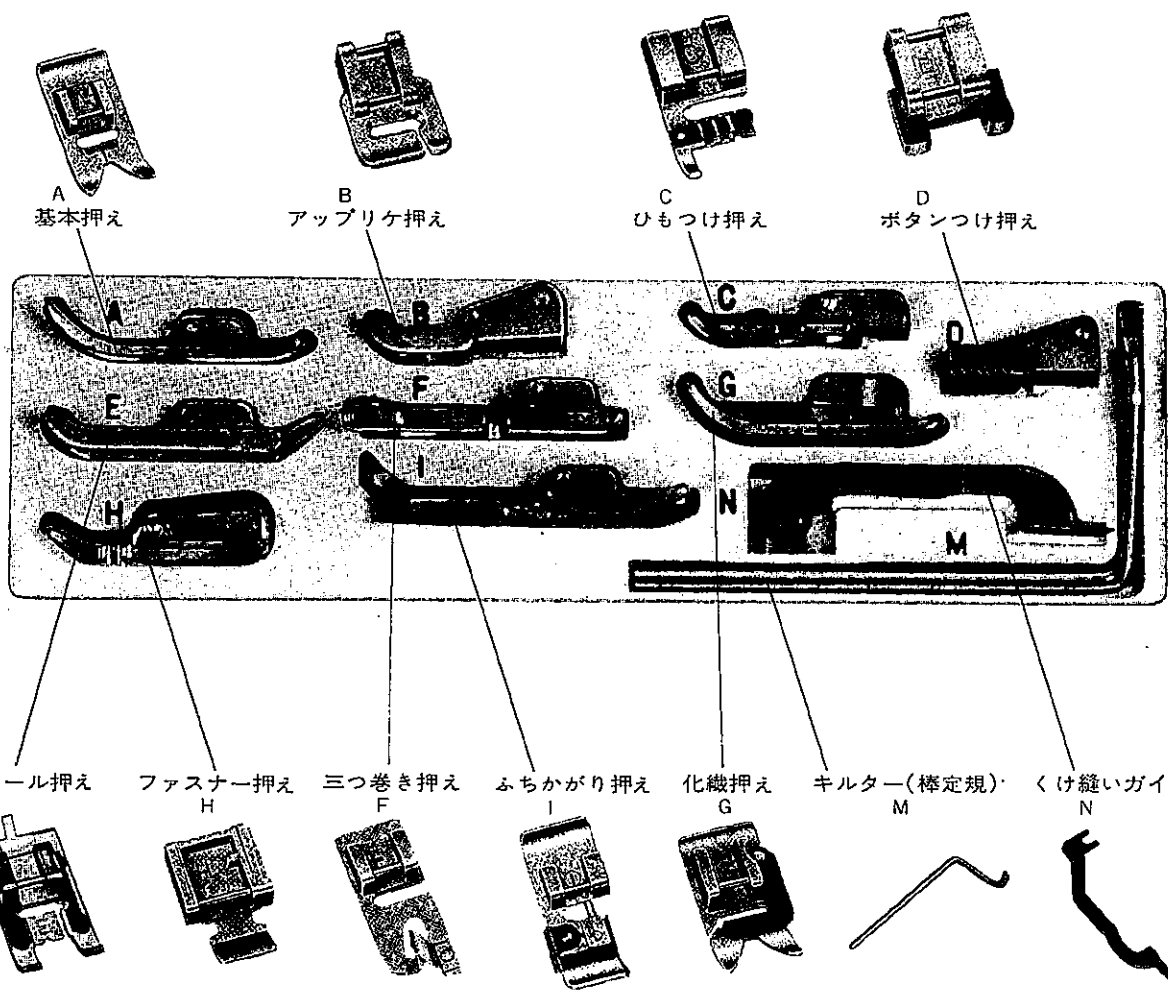
24	45-43	23	47	44-42	45-44	49-31	41-21	48	23	21	22	20	42-18	21	28	34	32	40	33	21-22	46	26	47	38	参照するページ
----	-------	----	----	-------	-------	-------	-------	----	----	----	----	----	-------	----	----	----	----	----	----	-------	----	----	----	----	---------

弱	弱	弱	弱	弱	弱	中	中	弱	弱	弱	中	弱	中	弱	中	弱	中	中・強	弱・中	弱	弱	弱	中	弱	上糸調子
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----	---	---	---	---	---	------

ボタン 穴かがり	カフアブリ ク	フエザー ス	広巾 ツ	シメタテ ス	シメタテ ス	シメタテ ス	シメタテ ス	シメタテ ス	シメタテ ス	シメタテ ス	伸縮縫い 状	伸縮縫い 状	直線縫い 状	直線縫い 状	波縫い 状	フラスナー 状	しつけ	しつけ	2本針	ボタ ン	ボタ ン	ボタ ン	ボタ ン	くけ縫い	シメタテ	模様縫い
左	右	左	左	左	左	直線	左	右	右	右	中	左・中	直線	右	左右	直線	直線	2本針	左	右	左	中	左	左	左・中	
4~7	2~5	5~7	5~7	3~7	5~7	0	5~7	3~7	3~7	5	2~3	1~7	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	B	A	E	A	A	A	A	A	A	I	A(G)	A	A(M)	I	H	A	F	C	D	A(G)	C	A-N	E	A	押え	



\*上に示された送りダイヤル、振巾レバー、上糸調子の表示範囲は、選択するときのおよその目安を示してあります。試し縫いをして適切な調整をしましょう。  
\*送りダイヤルや振巾レバーをセットする目盛りは、ほぼミリメートル単位に合わせてあります。



A  
基本押え

B  
アップリケ押え

C  
ひもつけ押え

D  
ボタンつけ押え

E  
ボタンホール押え

H  
ファスナー押え

F  
三つ巻き押え

I  
ふちかがり押え

G  
化繊押え

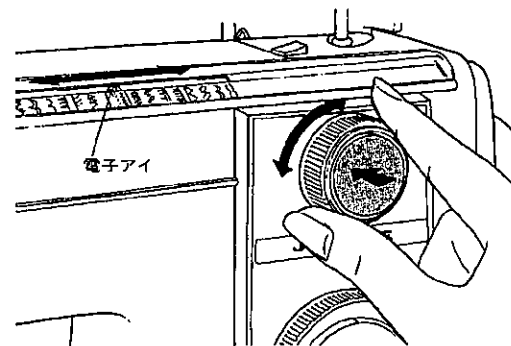
M  
キルター(棒定規)

N  
くけ縫いガイド

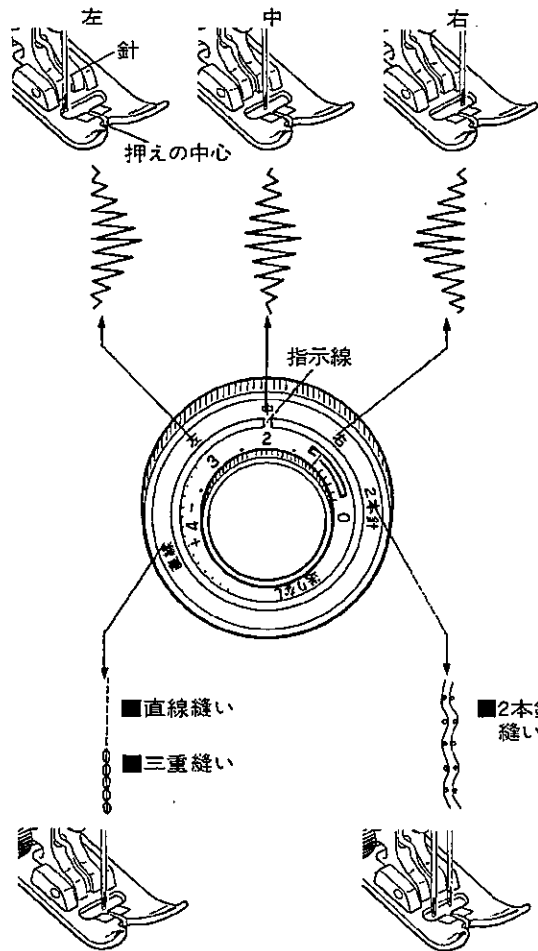
※押え類はきめられたところに、きちんとしまってください。  
 ※基本押えは、ミシンにつけてあります。



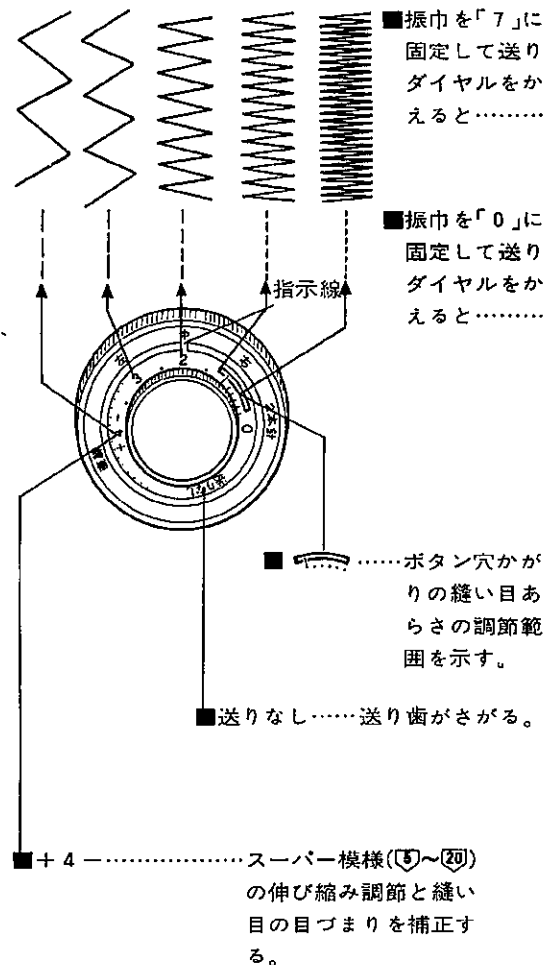
ステッチチャンネルをまわして模様を選び、電子アイが選んだ模様のところを点いたら、ステッチチャンネルを押します。



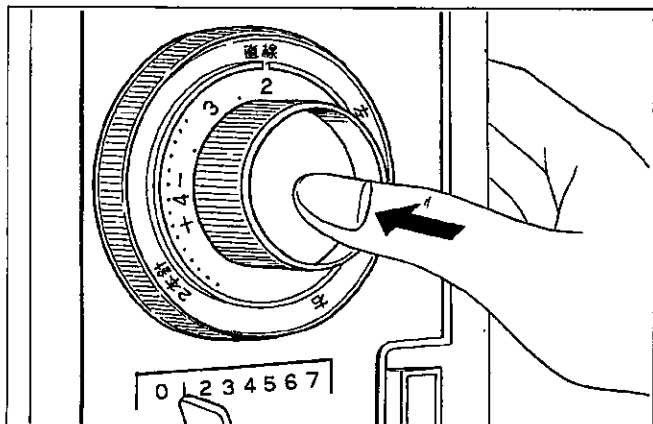
基線ダイヤルをまわし、指示線に文字を合わせて、針位置を選びます。



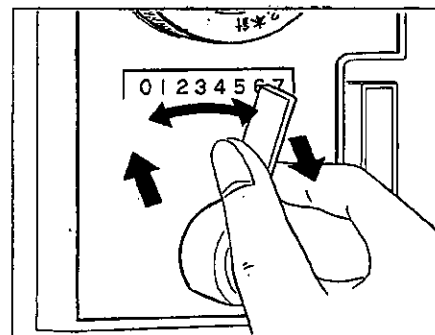
送りダイヤルをまわし、指示線に「0」～「4」の数字を合わせて、縫い目のあらしきを選びます。



返し縫いボタンを押している間は返し縫いとなり、指をはなすと前進縫いに戻ります。



振巾レバーを目盛に合わせて、ジグザグ縫いの縫い目の巾を選びます。



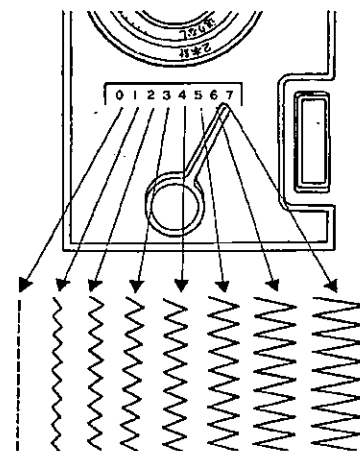
#### 《セットのし方》

振巾レバーを押しながら「0」～「7」の目盛に合わせて、手前に引き出すようにして手をはなす。

#### 《振巾レバーの戻し方》

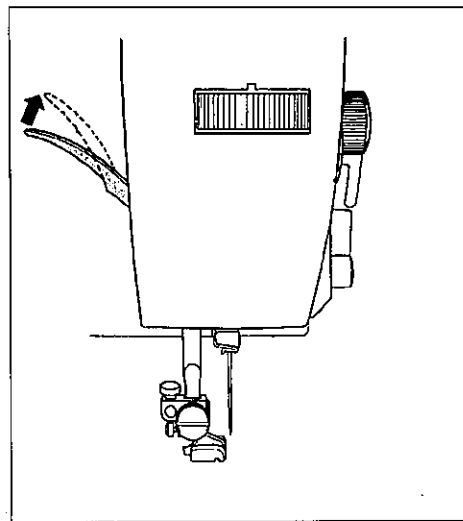
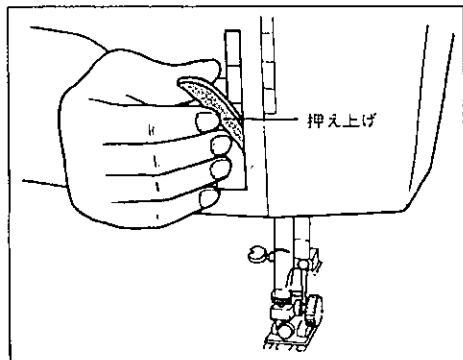
振巾レバーを押しながら「0」に戻す。

※振巾レバーは、押さずに移動させると、手をはなしたとき、もとのセットの位置に戻ります。



■送りを「1」に固定して  
振巾をかえると……

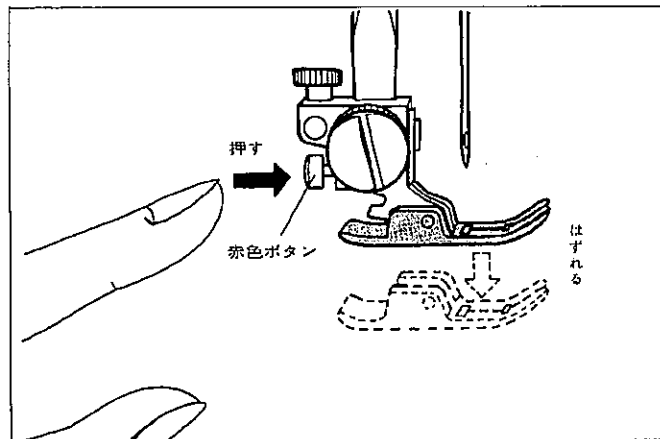
押え上げをあげさげして、押えをあげたり下げたりします。



押え上げをあげた位置より、さらに高くあげると、押えの位置がさらに上がる。  
ししゅう棒糸を入れるときなどに使う。

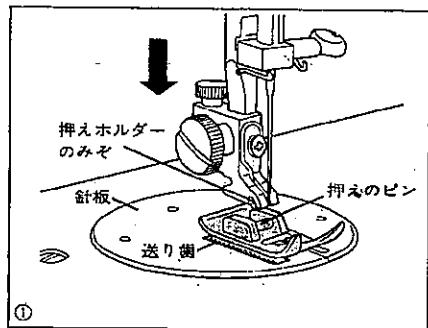
押えと押えホルダーは、縫いの種類によって交換します。

### 《押えのはずし方》



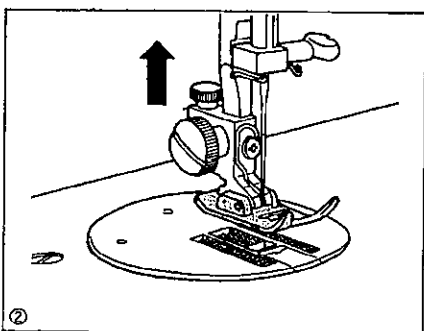
電源スイッチを切り、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずす。

※押えを無理に引いて、はずさないでください。



### 《押えのつけ方》

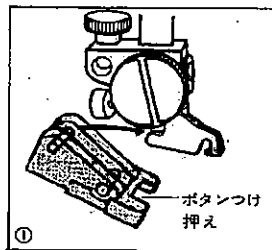
①送りダイヤルを、「送りなし」に合わせて、押えのピンをホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをおろす。



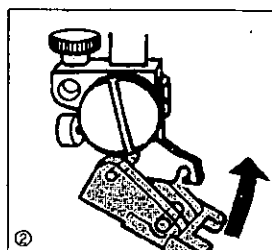
②ピンがみぞに入ったのを確かめて、押え上げをあげる。

※押えをつけるときは、押え圧調節つまみを「3」にしてください。

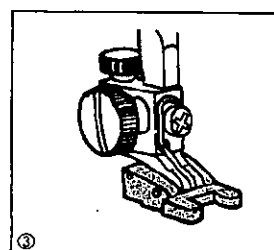
### 《ボタンつけ押え・アップリケ押えのつけ方》



①押えを図のように傾け、押えの後方のピンを押えホルダーのみぞに入れる。



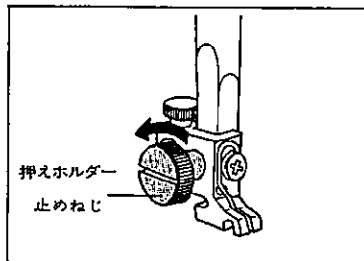
②押えの前側を押しあげる。



③ボタンつけ押えがついた状態。

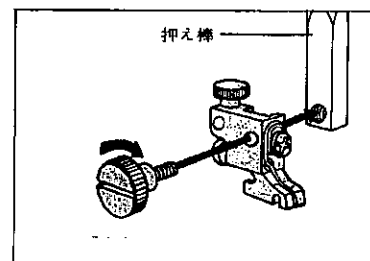
※アップリケ押えも同じ方法でつけます。

### 《押えホルダーのはずし方》



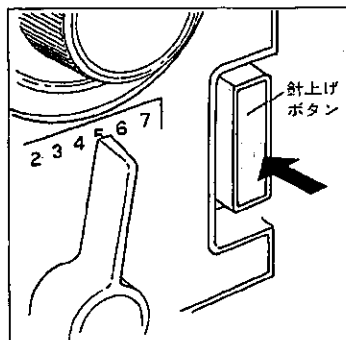
押えホルダー止めねじを、ねじまわしで左にまわします。

### 《押えホルダーのつけ方》



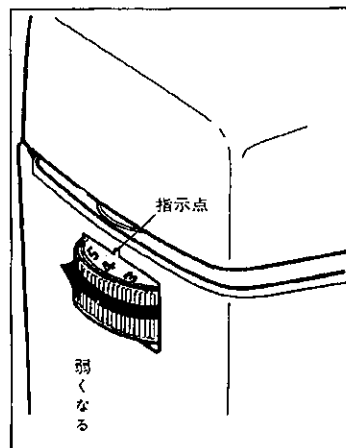
押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわしで右にまわしてしっかりつける。

針上げボタンを押すと、針と天びんがあがって止まります。



- ※針上げボタンは、針が止まるまで、確実に押してください。
- ※ボタンは、ミシンが動いているときは、押さないでください。
- ※針が最上部にあるときや、ミシンを「しつけ」にセットしたときは、ボタンを押しても動かないことがあります。

糸調子ダイヤルをまわして、縫いに適した上糸調子を選びます。



ダイヤルの目盛は、数字の小さい方が弱い。

選ぶ目安は

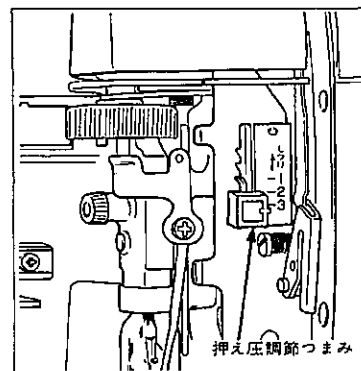
弱……………0～4

中……………3～6

強……………5～9

※下糸調子の出し方は、17ページにあります。

押え圧調節つまみを「3」～「1」の数字・「しつけ」に合わせて、縫いに適した押え圧を選びます。



押えをさげ面板をひらいて、押え圧調節つまみをあげさげして、「3」「2」「1」「しつけ」の位置に合わせる。

※押え圧調節つまみを動かしたときは、あとで「3」に戻しておいてください。

## 《押え圧の選び方》

通常は、「3」の位置にして縫いますが、つぎの場合は、押え圧調節つまみをそれぞれ調節する。

- うすい布や化繊地、伸縮性のある布などで、縫い縮みしたり、そり返って、うまく縫えないときは、「1」の位置。
- アップリケ、カットワーク、ドロンワークなどのときは、「2」の位置。
- しつけのときは、「しつけ」の位置。

布と糸と針の関係は下の表を目安に選びます。

	布	糸	針
薄物	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガジー、ジョーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9番 または 11番
普通物	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11番 または 14番
厚物	デニム、ツイード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14番 または 16番

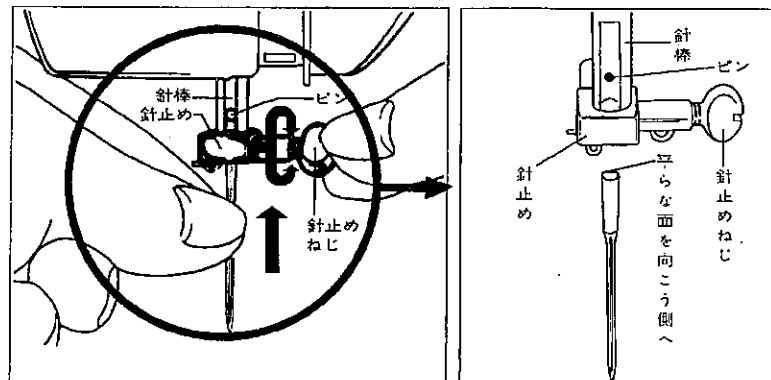
※ここに示す布と糸と針の関係は、標準の組み合わせです。一般に薄物縫いは細い糸と細い針を、厚物縫いは太い糸と太い針を使用します。試し縫いをして確かめてください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)は、ジャンメ化繊針(紫色)を使用すると目とびを防ぐのに効果があります。また基本押えて目とびする場合は、化繊押えを使用すると効果があります。

※しつけ、切りじつけをするときは、ジャンメミシン直営支店で販売しているミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

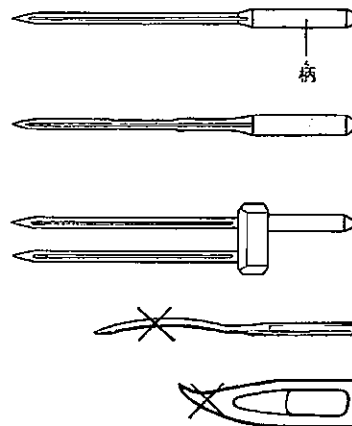
※ごく薄い布は、下に紙を敷いて縫ってください。

### 《針のはずし方、つけ方》



- ①針をあげ、電源スイッチを切る。
- ②針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずす。
- ③針の柄の平らな面を向こう側に向けて針止めにしこむ。
- ④奥いっぱいピンにあたるまで入れ、針止めねじをかたくしめる。

### 《針の選び方》



■針の太さを示す番号は柄に表示されており、数字が大きくなれば太くなる。

■化繊針は柄の部分が紫色をしている。

■2本針は針と針の間かくによって2種類ある。

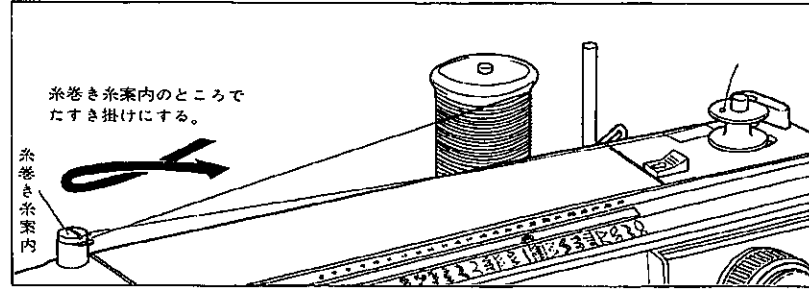
銀色……一般用

緑色……ピンタック(せまい)

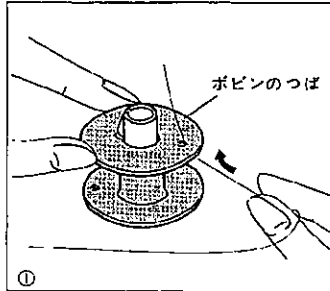
※ジャンメ独特の2本針や化繊針を使用してください。

※全体がまがってしまったものや、針先がつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

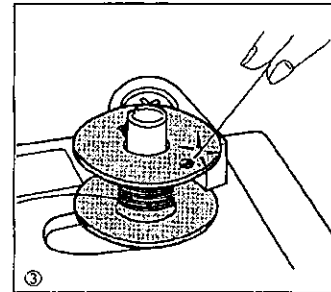
### 《下糸を巻くときの糸の掛け方》



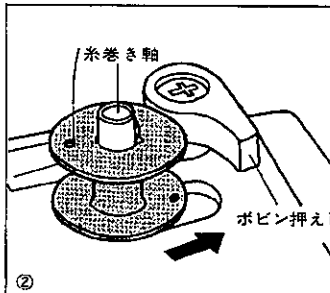
### 《巻き方》



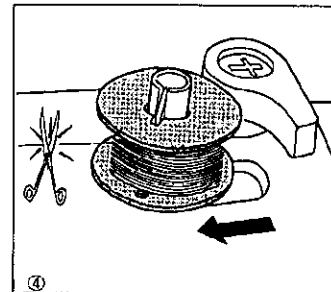
- ①糸の先をボビンのつばの穴に内側から通す。



- ③糸の端を指でつまんだままコントローラーを踏む。ボビンに糸が3重くらい巻きついたら、穴のきわで糸を切る。



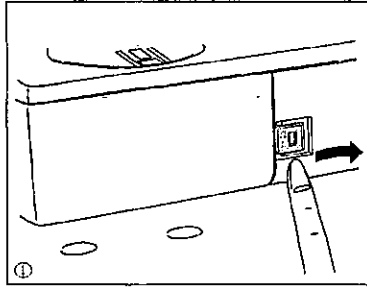
- ②ボビンを糸巻き軸にさしこんで、ボビン押えの方に押す。



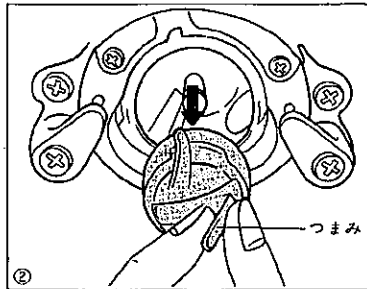
- ④巻きおわったら、ボビンは自動的に止まる。ボビンを戻して、糸を切る。

※糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行ってください。

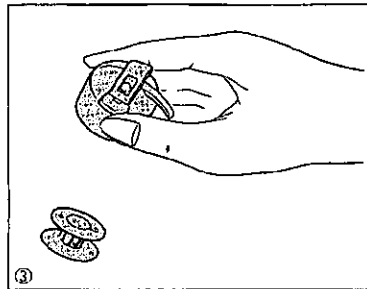
### 《はずし方》



- ① 針上げボタンを押し、針をあげ、電源スイッチを切る。  
フリーアーム前側のベッドふたボタンを右へ押し、ベッドふたをあける。

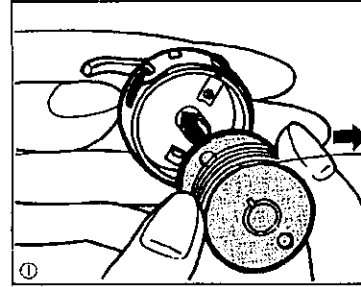


- ② ボビンケースのつまみをいっぱいにおこしてとり出す。



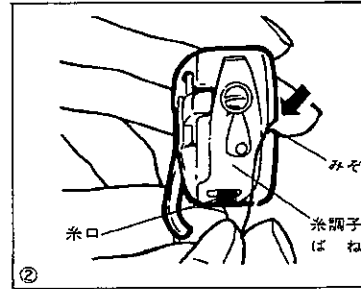
- ③ ボビンケースのつまみを倒し、中のボビンをとり出す。

### 《つけ方》

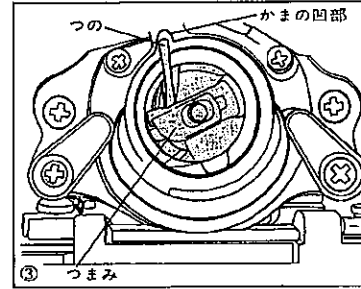


- ① ボビンに巻いた糸の端を必ず矢印の方向にして、ボビンケースに入れる。

※つまみをおこしたままでボビンを入れると、きちんとボビンケースにおさまりません。



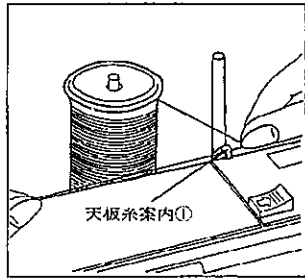
- ② 糸の端をつまんで、ボビンケースのみぞに糸を通して引き、糸調子ばねの下にくぐらせて、糸口から10cmほど引き出す。



- ③ つまみをいっぱいにおこし、つものかまの凹部に合わせ、奥いっぱいに入れてからつまみをはなす。

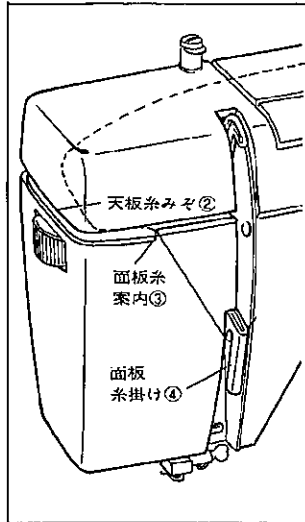
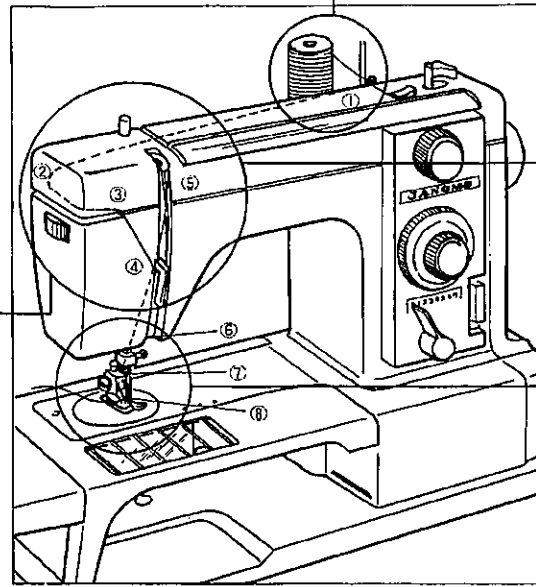
※中がまにボビンケースがきちんと入っていないと、ミシンを動かしている途中で、はずれたり、針が折れたりする原因となります。





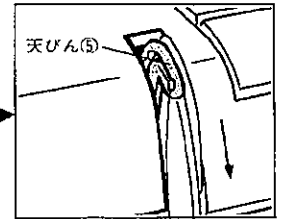
●押えをあげ、針上げボタンを押して、天びんをあげる。糸ごまから引き出した糸を天板糸案内①に掛ける。

※糸ごまの下に、付属品の糸立て棒フェルトを敷いてください。

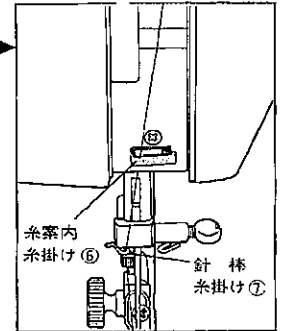


●糸を、天板糸みぞ②の後方から手前に通し、面板糸案内③のところをななめにおろし、面板糸掛け④に掛ける。

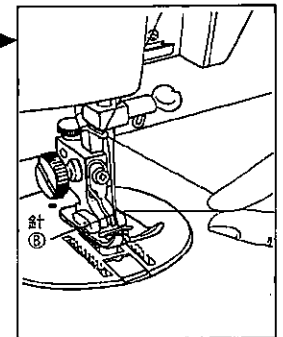
※①～⑧の順に正しく糸を掛けてください。



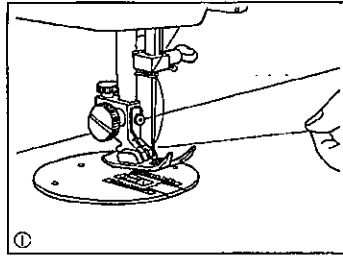
●天びん⑤に、後ろから糸を掛け右に通す。



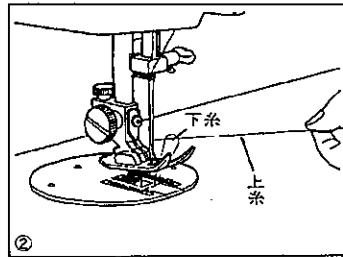
●天びんに通した糸を糸案内糸掛け⑥の右側から掛け、針棒糸掛け⑦は左側から掛ける。



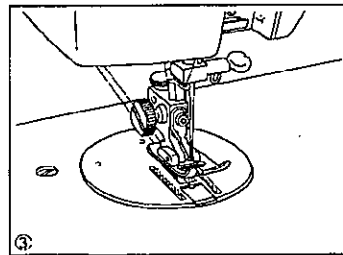
●針⑧の手前から向こう側に糸を通す。



- ①左手で上糸の端をつまんで、ややゆるめて持つ。



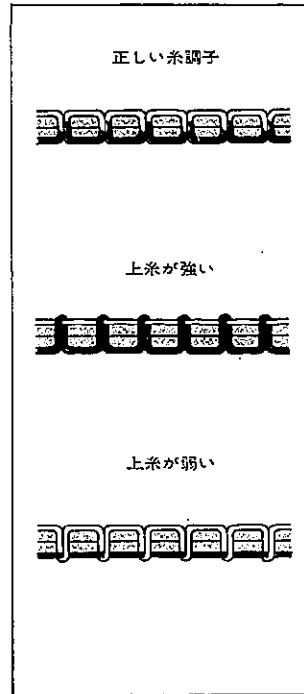
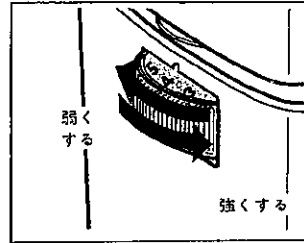
- ②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてあげる。天びんが最上部にきたら上糸を引くと、下糸が「輪」になって出てくる。



- ③出てきた下糸と上糸を、押えの下から向こう側へ、15cmほど引き出してそろえておく。

糸調子は、原則として、上糸調子を強めたり、弱めたりして調節します。

### ★上糸調子の出し方



上糸と下糸が、縫い合わせた布のほぼ中央でまじわる。

縫い合わせた布の上の下糸が出る。

上糸調子を弱める。

縫い合わせた布の下に上糸が出る。

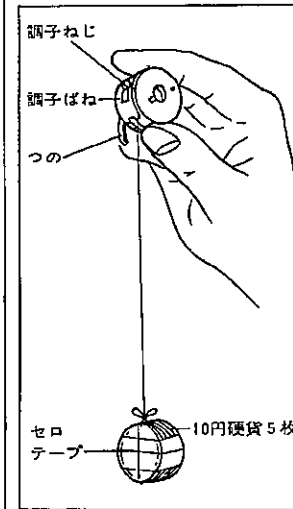
上糸調子を強める。

### ★下糸調子の出し方

上糸調子を強めたり弱めたりしても調節ができない場合には、下糸調子を確認してください。

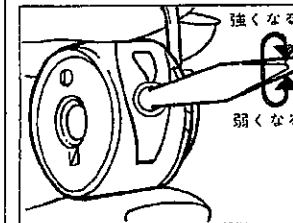
### 《正しい下糸調子》

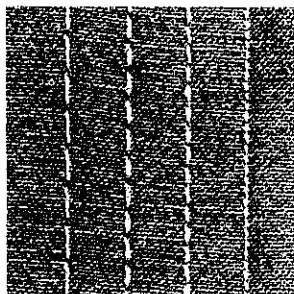
- ①ソフトカタン糸60番をボビンケースから引き出し、10円硬貨5枚をセロテープで止めてつす。
- ②ボビンケースのつのを下にして、調子ばねに触れないように持つ。
- ③つるした10円硬貨がごくゆっくりさがる。



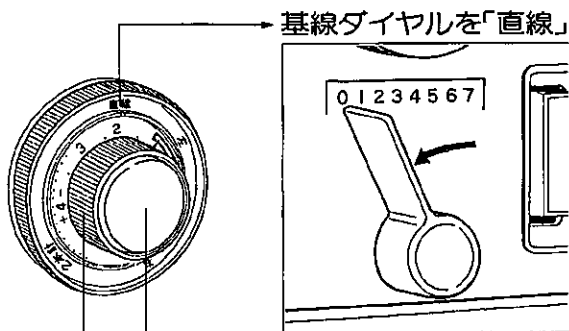
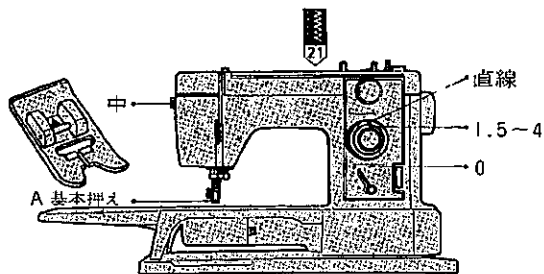
### 《調子の出し方》

一度、調子ねじをしめてから、10円硬貨が動きはじめるまで、少しづつゆるめる。

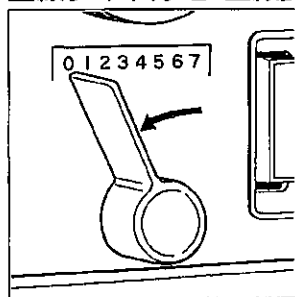




《セットの仕方》

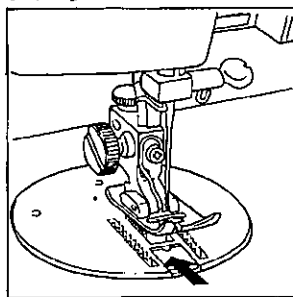


→ 基線ダイヤルを「直線」にセットすると……



振巾レバーが自動的に「0」に戻り固定される。

※「直線」にセットしたときは振巾レバーを動かさないでください。

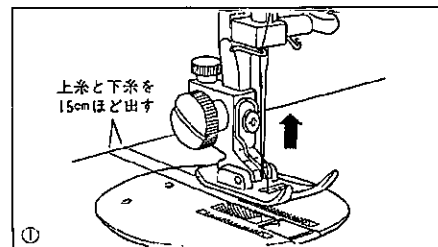


針穴が自動的に直線縫い専用になる。

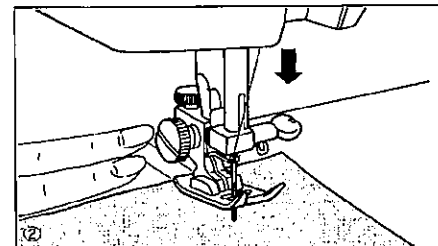
→ 返し縫いボタンを押すと、縫いはじめ、縫いおわりの止め縫いができる。

→ 送りダイヤルで縫い目のあらしさを調節する。

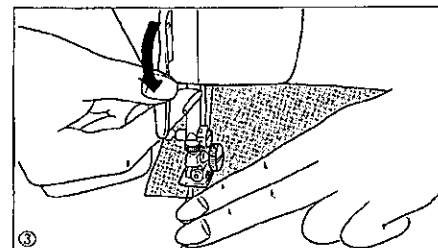
《縫いはじめ》



① 上糸・下糸を押えの向こう側へ15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。



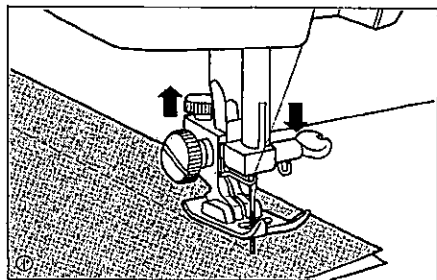
② 上糸・下糸を左手で押えて、はずみ車を手前にまわし、縫いはじめの位置に針をさす。



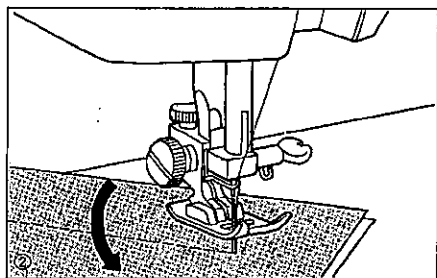
③ 押えをおろし、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめる。

※縫いはじめの部分止め縫いするときは、返し縫いボタンを押してください。

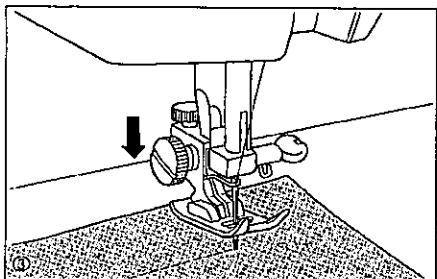
### 《縫い方向をかえるとき》



①針を布にさしたままミシンを止め、押えをあげる。

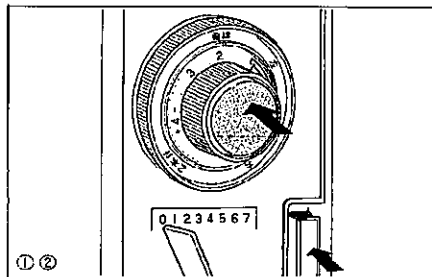


②針を軸にして、布をまわす。



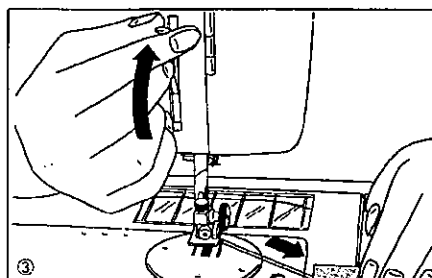
③押えをおろして縫う。

### 《縫いおわり》

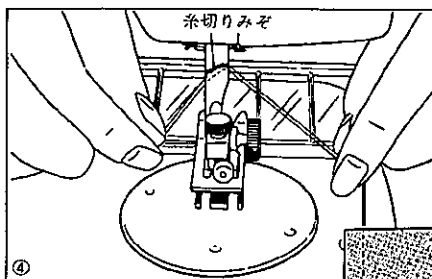


①返し縫いボタンを押して、数針止め縫いをする。

②針上げボタンを押して、針をあげる。



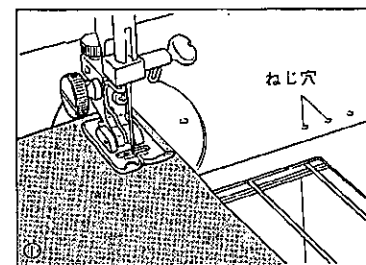
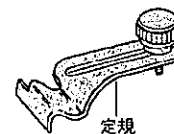
③押えをあげ、布を左向こう側に引き出す。



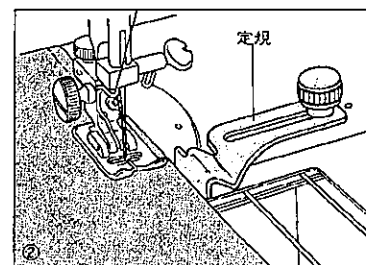
④押え棒の糸切りみぞで糸を切る。

### ★定規の使い方

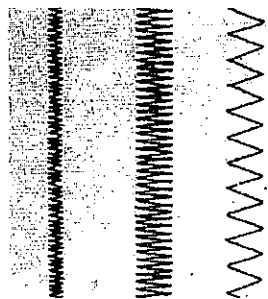
布端にそって縫いたいときなどに便利です。



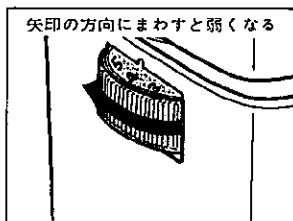
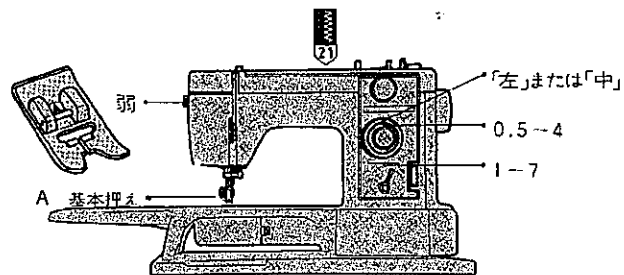
①定規を必要な間かくに合わせて、ベットのねじ穴に止めねじで、しっかり止める。



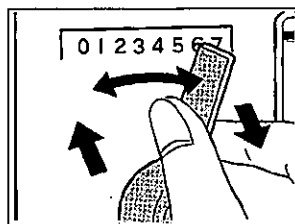
②布端を定規に軽くあてながら縫う。



### 《セットのし方》



布の裏に上糸が少し出るくらいに上糸調子を弱くすると、布の表の模様が美しく縫える。

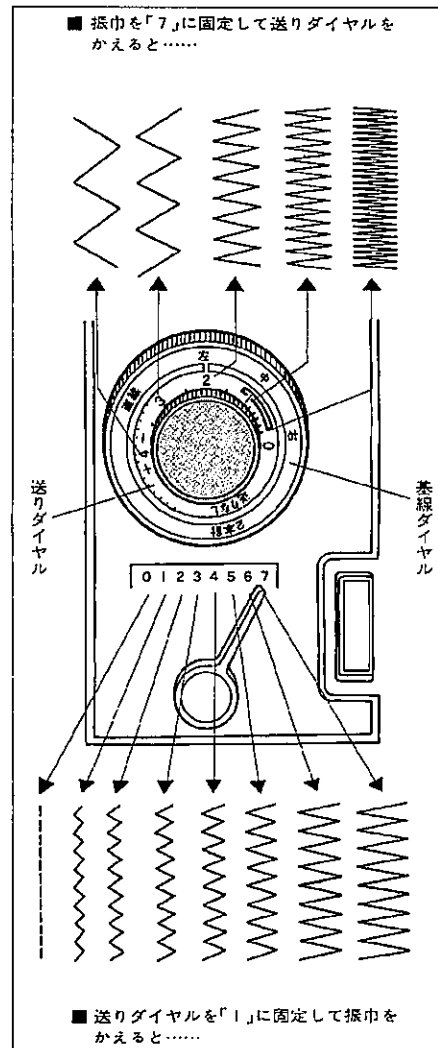


### 《振り巾レバーのセットのし方》

振り巾レバーを押しながら移動して、振り巾を選び、手前に引き出すようにして、手をはなす。

※振り巾レバーは、押さずに移動すると、はなしたとき、もとのセットの位置に戻ります。

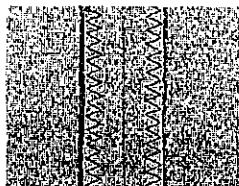
### 《送りダイヤルと振り巾レバーの関係》



裁ち目かがりは、布端のほつれ止めとして、特に肩・袖下・脇・見返し・股上・股下などのほつれ止めに使います。

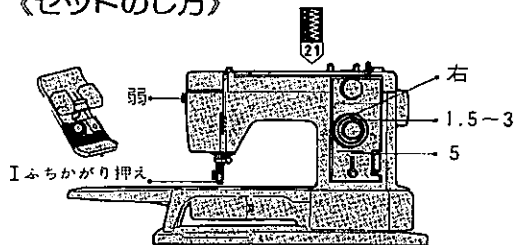
かがり方は、ジグザグ縫い裁ち目かがり・かがり縫いステッチ・トリコット縫い裁ち目かがり・スカラップ縫い裁ち目かがりがあります。

### ★ジグザグ縫い裁ち目かがり



普通の布のほつれ止めに広く利用します。

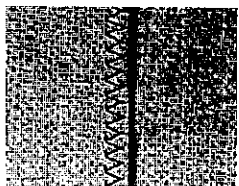
#### 《セットのし方》



#### 《縫い方》

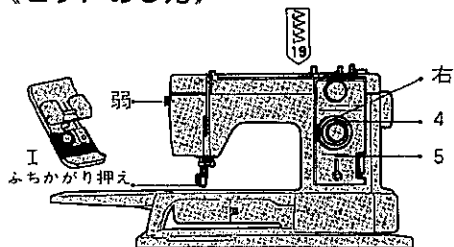
布端をぶちかがり押えのガイドにあてて押えをおろす。

### ★かがり縫いステッチ



かがり縫いと地縫いが同時にできるので、特に、ほつれやすい布や、縫いしろを割らないものの縫い合わせに適しています。

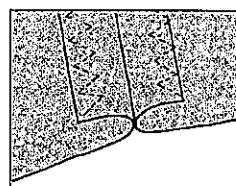
#### 《セットのし方》



#### 《縫い方》

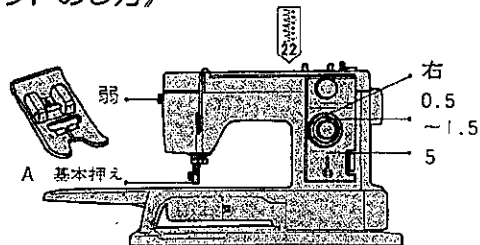
ジグザグ縫い裁ち目かがりと同じ。

### ★トリコット縫い裁ち目かがり



ほつれやすい布や伸縮性のある布の端をかかると、ほつれ止めや布端の返りを防ぎます。

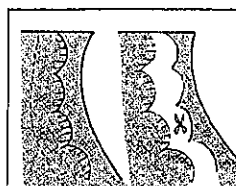
#### 《セットのし方》



#### 《縫い方》

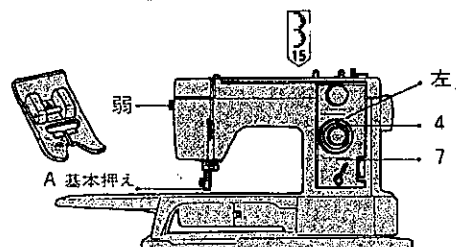
布端を押えの下におき、布端を縫う。

### ★スカラップ縫い裁ち目かがり



縫いしろを割ると、つれてしまうような衣服の切りかえ線などの曲線の部分に利用します。

#### 《セットのし方》



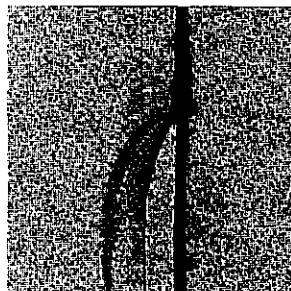
#### 《縫い方》

布端よりやや内側を縫い、糸を切らないように余分な布を切り落とす。

ニット(ジャージー・トリコット)などの伸縮性のある布の縫い方に、直線状伸縮縫い・トリコット縫い・ニットステッチ・フェザーステッチがあります。  
 ※針は化繊針を使います。

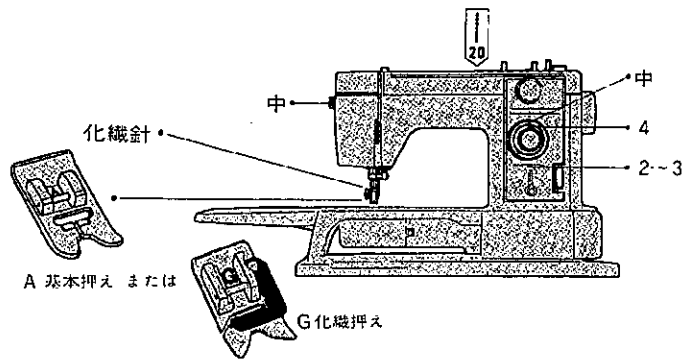
※基本押えで目とびのするときは、化繊押えを使ってください。

### ★直線状伸縮縫い

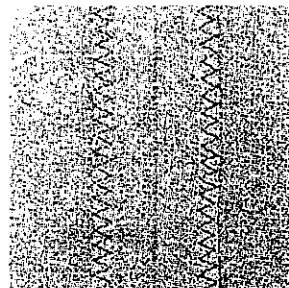


この縫い目で地縫いをすると、伸縮性があるので、布が伸びても糸が切れにくく、また、直線状なので、縫いしろを割ることもできます。

#### 《セットのし方》

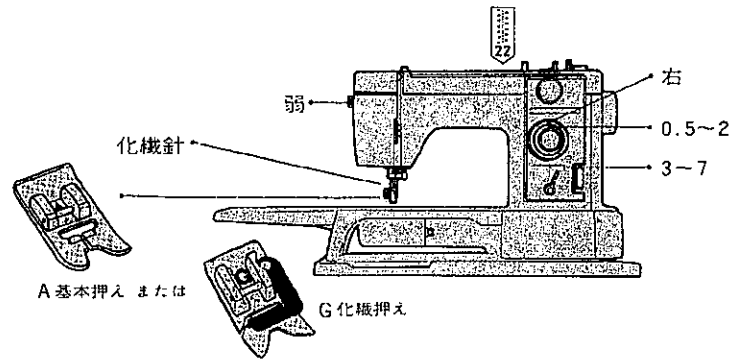


### ★トリコット縫い

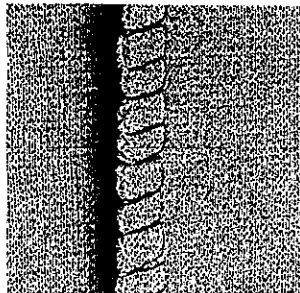


この縫い目でふちをかがると、ほつれ止めや布端の返りを防ぎます。

#### 《セットのし方》

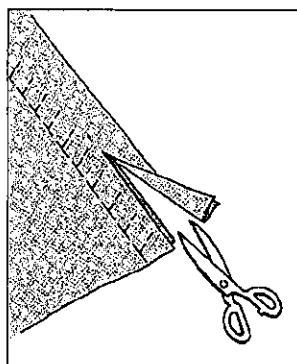
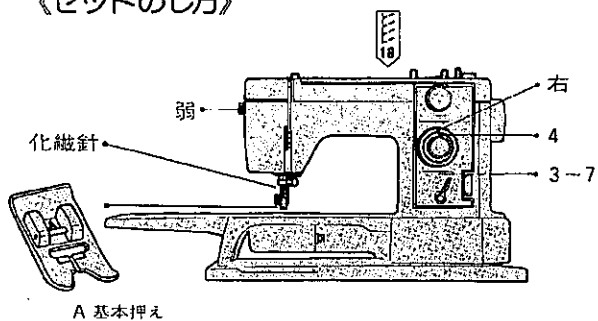


## ★ニットステッチ



この縫い目で布をとじ合わせると、縫い目がかがったり、地縫いをする必要がありません。

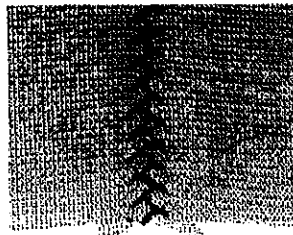
### 《セットの仕方》



### 《縫い方》

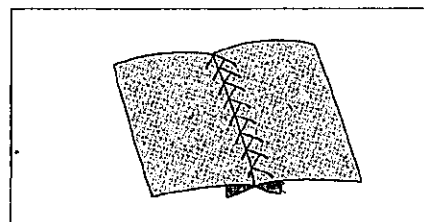
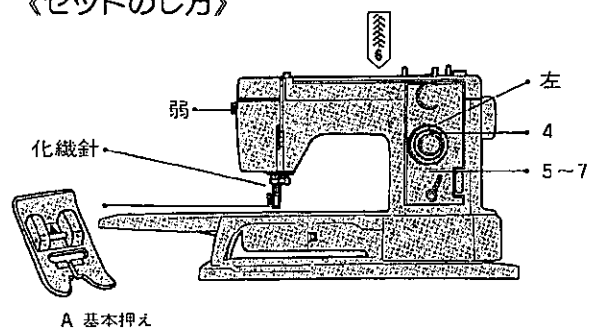
縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを、縫い目の近くで切り落とし、片方に倒して仕上げる。

## ★フェザーステッチ



この縫い目ではぎ合わせると、伸縮性があり、しっかりしたはぎ合わせができます。

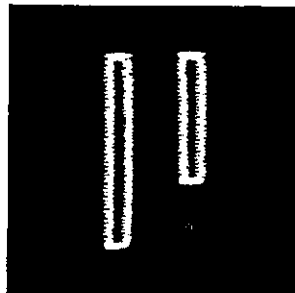
### 《セットの仕方》



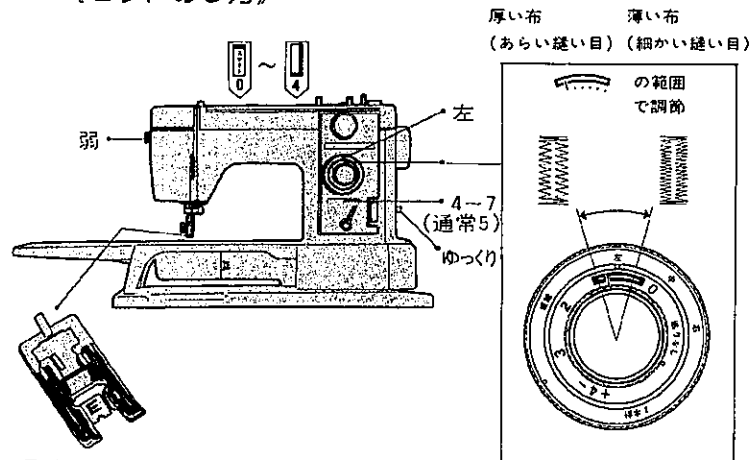
### 《縫い方》

地縫いをしてから割って、フェザーステッチ縫いをする。






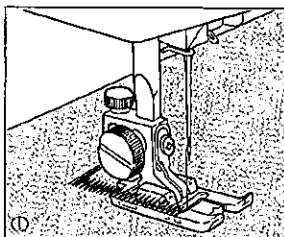
### 《セットのし方》



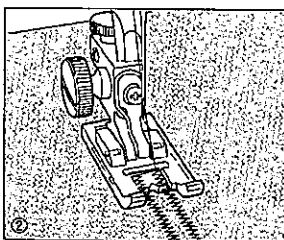
※ボタン穴かがりを途中でセットし直すときは、ステッチチャンネルをまわして、電子アイを④か⑤くらいまで動かしてから、⑥にセットしてください。

※  印は、ボタン穴かがりの縫い目あらしを調節する目安です。

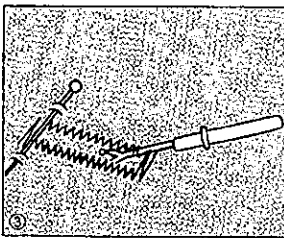
### 《縫い方》



①ステッチチャンネルをまわし、⑥に合わせて押す。上糸と下糸を左横に15cmほど引き出して、押えをおろす。  
ミシンを動かすと、かんぬきと左側が縫える。必要な長さ (A点) まで縫ったら、ミシンを止め、ステッチチャンネルを押す。



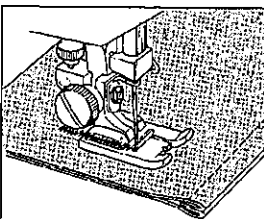
②ミシンを動かすと、自動的にかんぬきと右側が縫える。  
①のかんぬき (B点) まで縫い、ミシンを止める。押えをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切る。下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸をむすぶ。



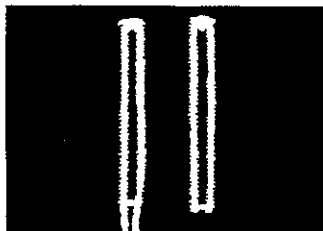
③かんぬきの内側にまち針を縫いさし、目ほどきで、かかった糸を切らないように、中央の布を切りひらく。

※伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布(ジャージ・ツイードなど)は、押え圧調節つまみを「2」にすれば、きれいに仕上がります。

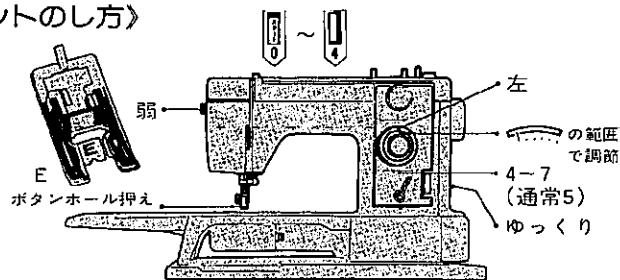
※伸縮性のある布のボタン穴かがりは、布の裏に伸びにくい接着芯をはれば、きれいに仕上がります。



ボタン穴の位置が縫いしろの重なっている部分のきわになるときは、図のように段部に交わる向きにし、段部を手前にして縫う。

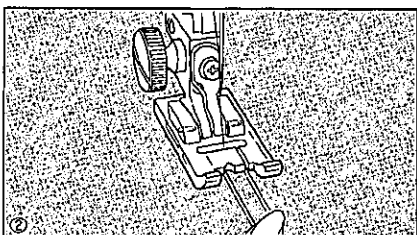
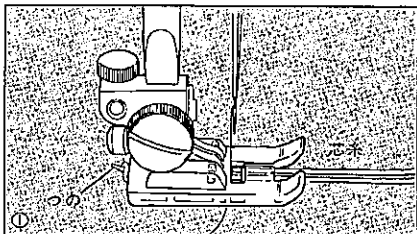


### 《セットの仕方》

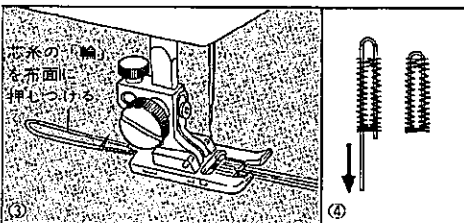


### 《縫い方》

①芯糸を、「輪」にして押えの後ろ側のつのに掛け、押えの下から手前に引き出し、押えをおろす。



②2本の芯糸を、つもの山に平行にして、軽く布面に押しつけ、かんぬきと左側を縫う。必要な長さだけ縫ったらミシンを止め、ステッチチャンネルを押す。

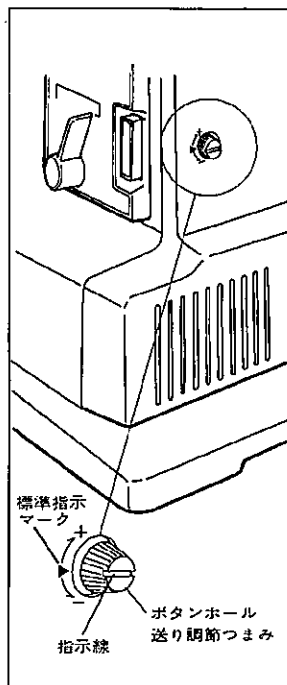


③押えの後ろ側に出ている芯糸の「輪」が、つんにかからないように布面に押しつけてから、②と同じく芯糸を押えながら、かんぬきと右側を縫う。

④左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切る。

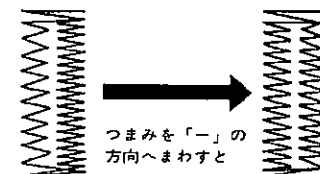
### ★ボタンホール送り調節つまみの使い方

布によっては、ボタン穴かがりの左側と右側の縫い目がそろわないことがあります。このときは、下の方法で調節します。



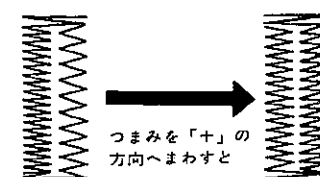
#### 《左側があらいととき》

ボタンホール送り調節つまみを「-」方向にまわす。

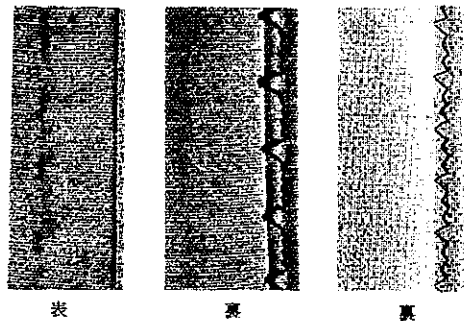


#### 《右側があらいととき》

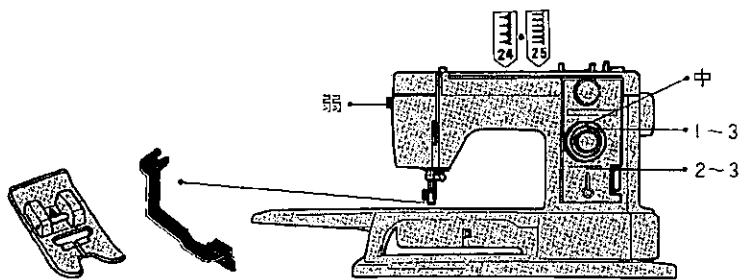
ボタンホール送り調節つまみを「+」方向にまわす。



※縫い終わったら、つまみの指示線を▶印に戻してください。



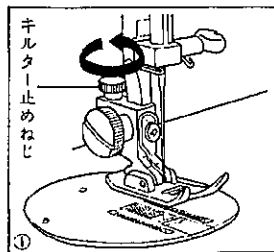
《セットのし方》



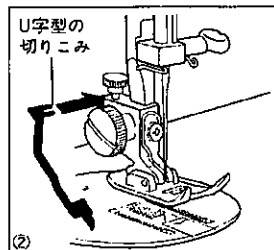
A 基本押え + N かけ縫いガイド

※伸縮性のある布の場合は、模様(23)が適します。

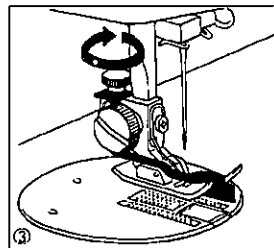
《かけ縫いガイドのつけ方》



①押えホルダーのキルター止めねじをゆるめる。

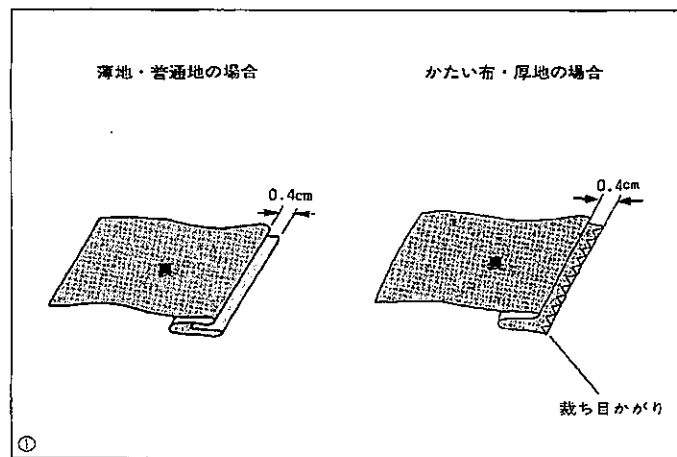


②U字型の切りこみを、キルター止めねじに、後ろから入れて前にまわすようにしてさしこむ。

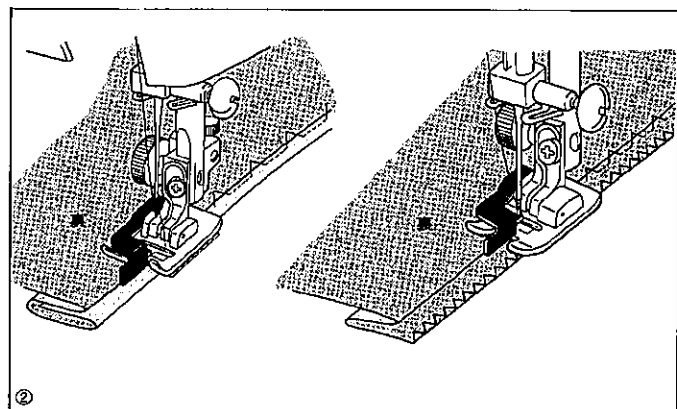


③基本押えの中央のスリットにガイドをおさめ、キルター止めねじをしめる。

## 《布の折り方と縫い方》



① 図のように布を折る。

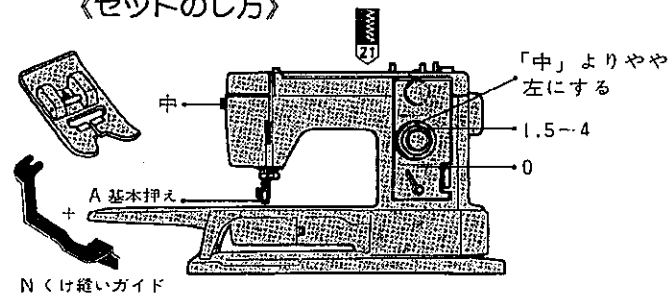


② くけ縫いガイドに折り山をあてて縫う。

## ♣ くけ縫いガイドの応用例

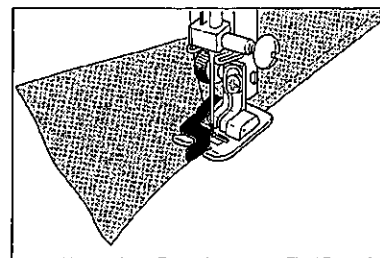
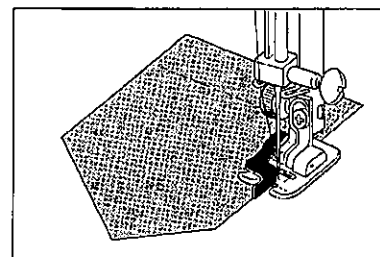
ポケットつけ・袴のステッチなど、布端にそって縫うときは、定規になります。

### 《セットのし方》

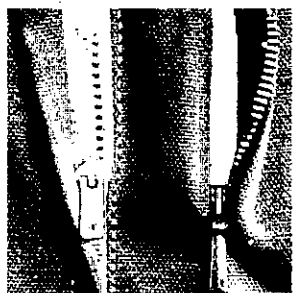


### 《縫い方》

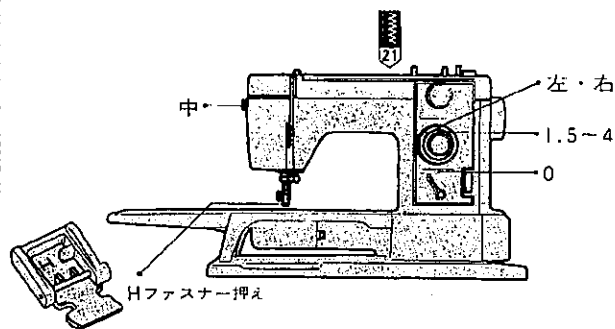
くけ縫いガイドに折り山をあてて縫う。



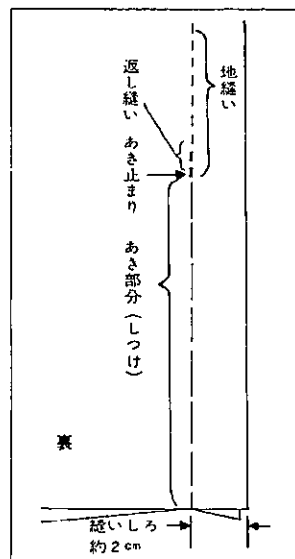
※布の表に縫い目が出る折り伏せ縫い・三つ折り縫いにも応用できます。



## 《セットのし方》



## ★ファスナーつけ



## 《準備》

布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。  
あき部分は、しつけをする。

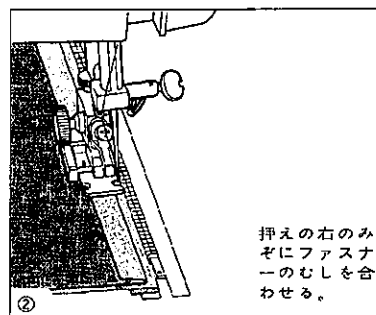
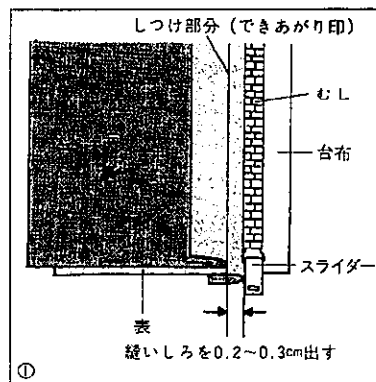
上の布の縫いしろを縫い目の線の上に折りかえす。  
下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して下に折り返す。

※しつけのセットの仕方は、34ページにあります。

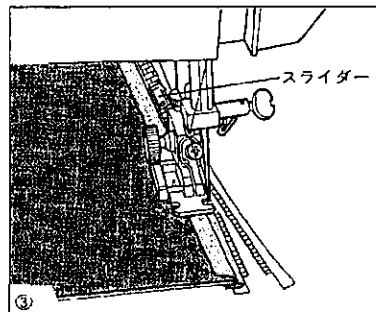
## 《縫い方》

①下の布の折り山を、ファスナーのむしにそわせて台布にのせる。

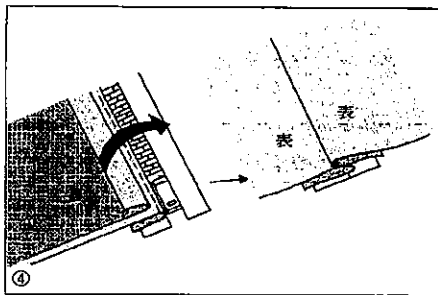
※この縫い方は、スカート左脇あきの例です。



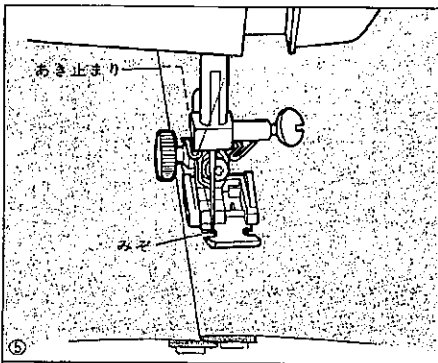
②押えを左によせ、押えのふちの右のみぞにファスナーのむしを合わせ、押えをおろす。基線ダイヤルを「右」よりやや中にセットし、上の布の折り山とファスナーのむしとの間に針がおりるのを確かめて縫う。



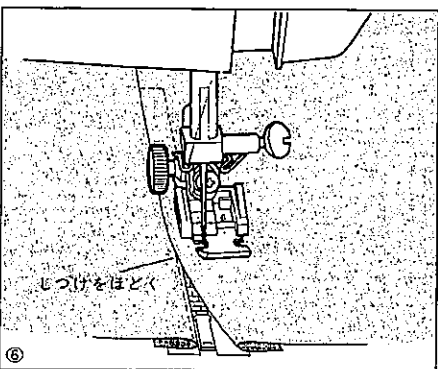
③ファスナーのスライダに押えが当たる手前でミシンを止め、針を布にさしたまま押えをあげて、スライダを押えの向こう側にずらし、押えをおろして残りを縫う。



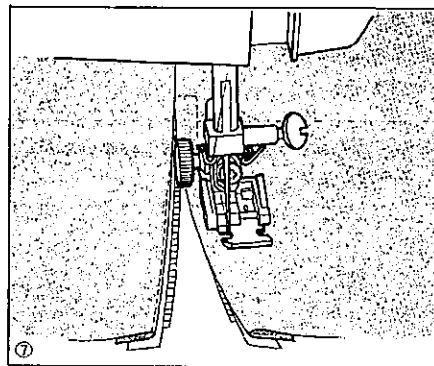
④スライダーをもとに戻し、  
布をひらいて、表にする。



⑤押えを右側によせ、押え裏  
の左のみぞにファスナーの  
むしを合わせ、押えをおろす。  
基線ダイヤルを「左」より  
やや中にセットし、針が押  
えの針穴いっぱいにおりる  
のを確かめて縫う。

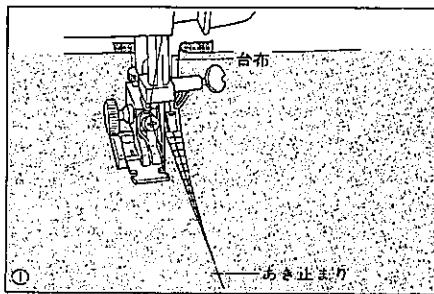


⑥ファスナーのスライダーに  
押えが当たる手前でミシン  
を止め、針を布にさしたま  
ま押えをあげ、しつけをほ  
どく。

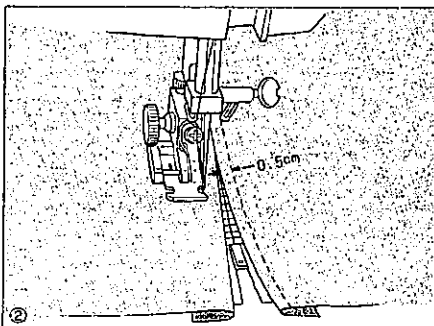


⑦ファスナーのスライダーを  
押えの向こう側にずらし、  
押えをおろして残りを縫う。

★突き合わせにつけるとき

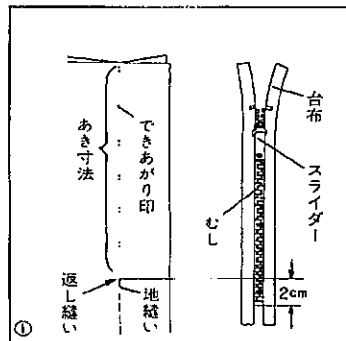


①あき止まりまで地縫いをし、  
縫いしろを割る。  
ファスナーのむしが見えな  
いように0.1cmくらいかぶ  
せて打ち合わせ、折り山か  
ら0.5cmはなしてあき止ま  
りに向かって縫う。



②あき止まりまで縫ったら、  
布をまわして、反対側を同  
じく折り山から0.5cmはな  
してあき止まりから縫う。

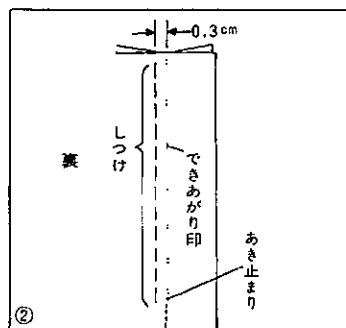
## ★コンシールファスナーつけ



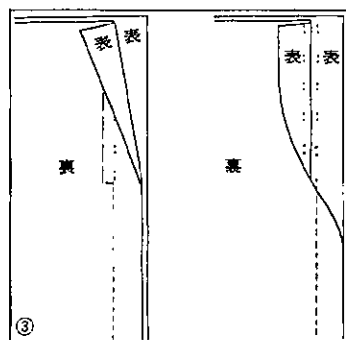
### 《準備》

①布を中表にして、あき止まりまで地縫いをする。

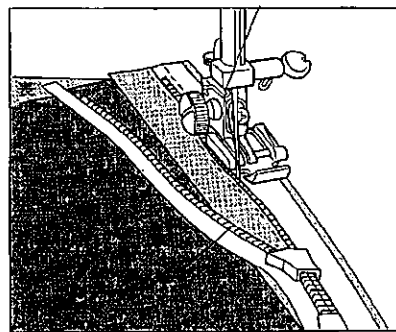
※ファスナーは、あき寸法より2cm長いものを用意します。



②地縫い線（できあがり印）から0.3cm内側に「しつけ」する。



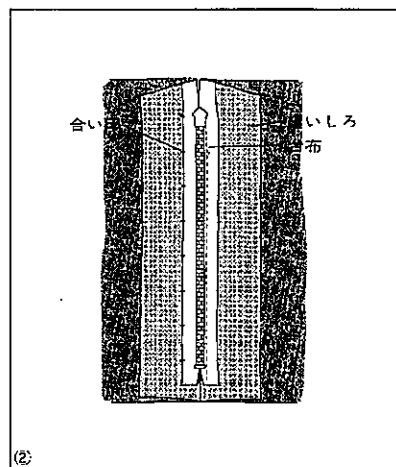
③上の布の縫いしろを身頃側へ倒して割る。



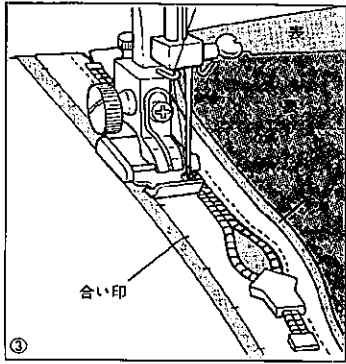
### 《縫い方》

①押えを右によせ、スライダをひらき、ファスナーの右のむしを上布に押しつけるようにしてむしをおこし、押えの裏の左みぞに合わせて押えをおろす。基線ダイヤルを「左」にセットし、むしのきわを縫う。

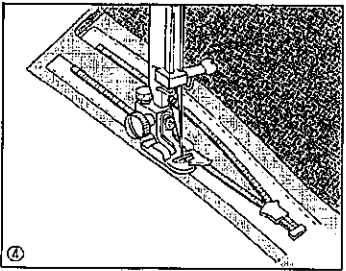
※指でむしをおこしながら縫ってください。



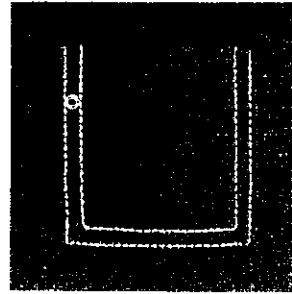
②スライダをとじ、左のファスナー台布と縫いしろに合い印をつける。



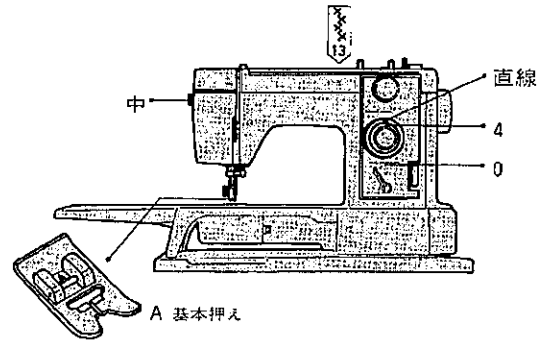
③押えを左によせ、スライダをひらき、  
基線ダイヤルを「右」にセットして、①  
と同じ要領で合い印に合わせながら縫  
い、しつけをほどく。



④ファスナーの台布を布の縫いしろに縫  
いつける。

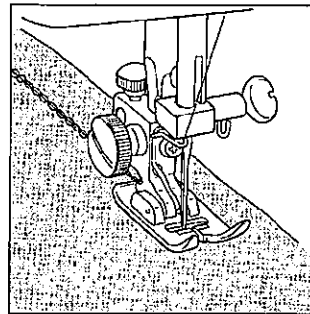


《セットのし方》

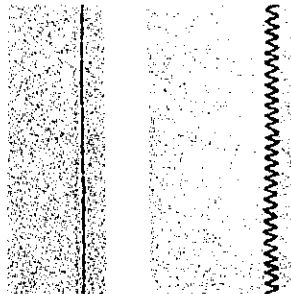


《縫い方》

布が前後して縫い目が乱れやすいので注  
意して縫う。

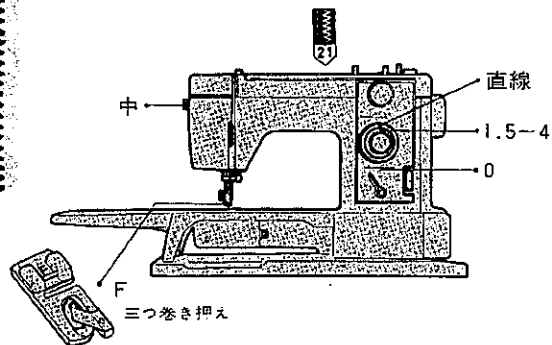






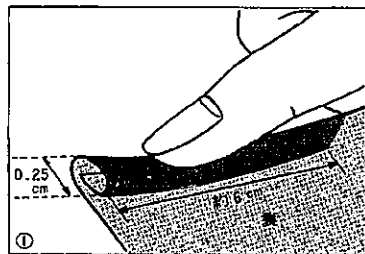
### ★直線三つ巻き縫い

《セットのし方》

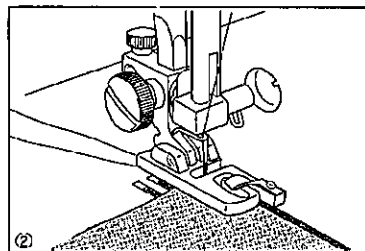


《縫い方》

- ①布端長さ約6cmを0.25cmくらいの巾で2度折りまげる。

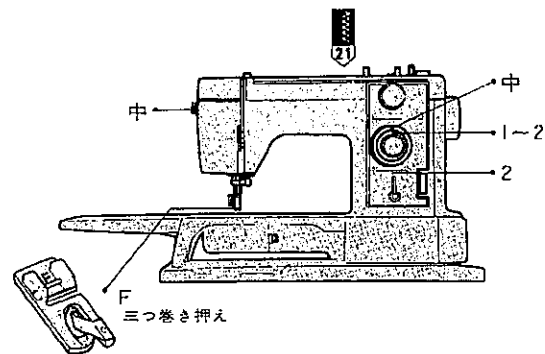


- ②針を折り山にさして押えをおろし、上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら2〜3針縫う。

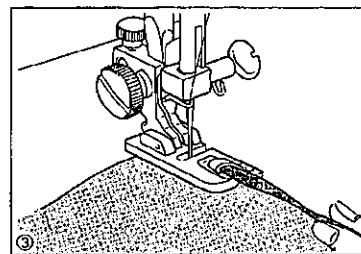


### ★ジグザグ三つ巻き縫い

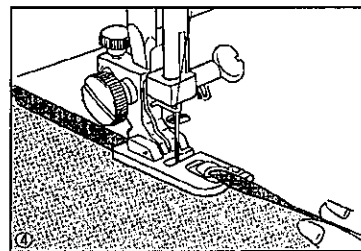
《セットのし方》



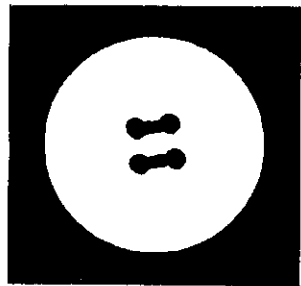
- ③針をさしたまま押えをあげ、折りまげた布の部分を押えの溝の中に巻きこむ。



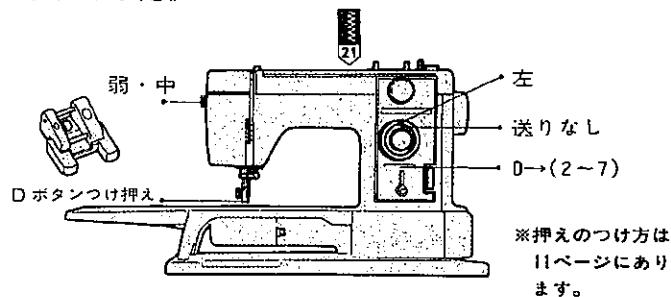
- ④押えをおろし、布端を立てて引きぎみに持ちあげながら縫う。



※縫い方は、直線三つ巻き縫いとジグザグ縫いとも同じです。

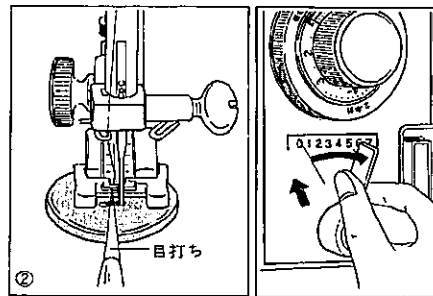
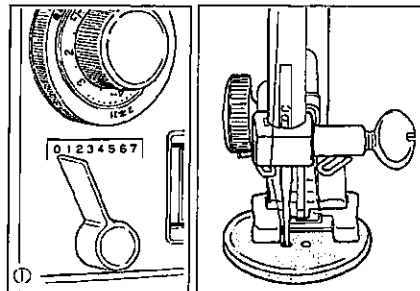


《セットの仕方》



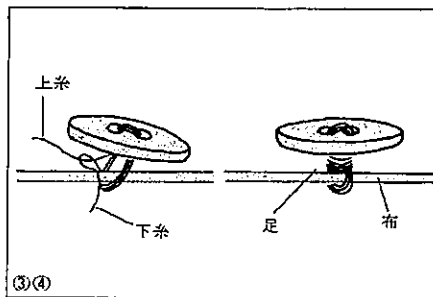
《縫い方》

- ①振巾レバーを「0」にセットして、ボタンの左の穴に針をさし、左右の穴を真横にならべて押えをおろす。

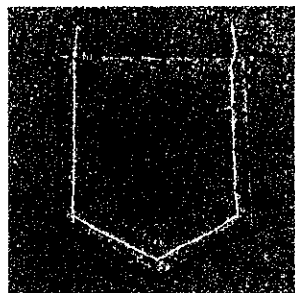


- ②ボタン穴の間に目打ちの先などをのせ、はずみ車を手前にまわしてボタンから針をあげ、振巾レバーを押しながら右へ動かし、ボタンの右穴に針先を合わせて、セットする。

※もし針が振巾レバーを動かしても右へ動かないときは、振巾レバーを「0」に戻して1針縫ってから、振巾レバーを押しながら動かしてください。



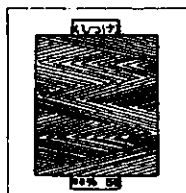
- ③10針くらい縫ったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切る。  
④上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて、下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に巻きつけてむすぶ。



しつけ

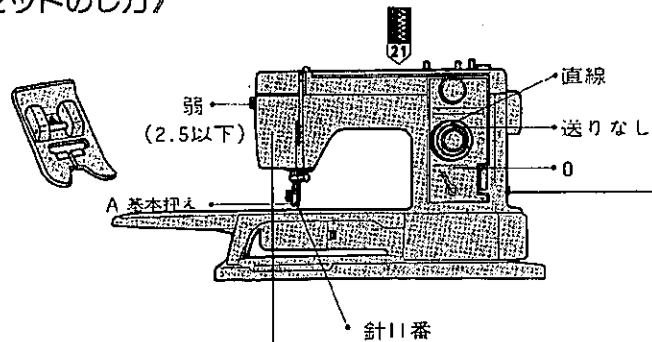


切りじつけ

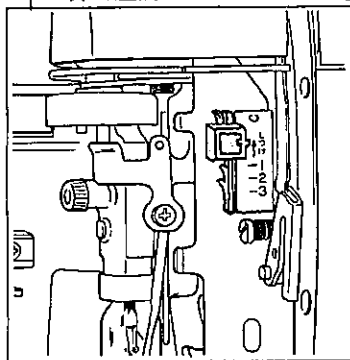


※糸は、ジャノメミシン直営支店で販売しているミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

### 《セットのし方》

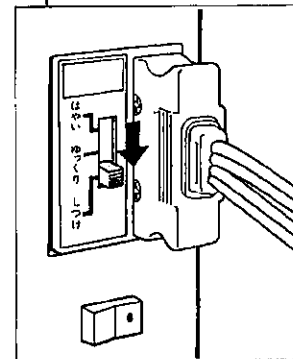


#### ●押え圧調節つまみ「しつけ」

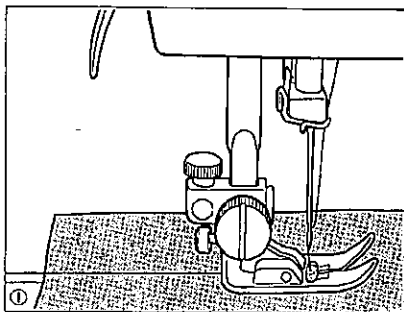


※しつけがおわったら、押え圧調節つまみを「3」に戻しておいてください。

#### ●スライドスイッチ「しつけ」



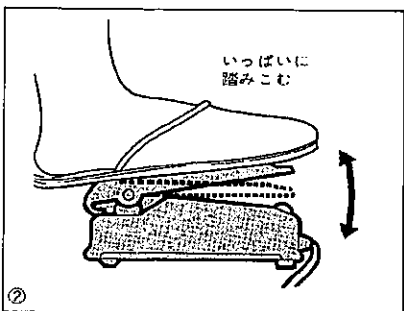
★しつけ



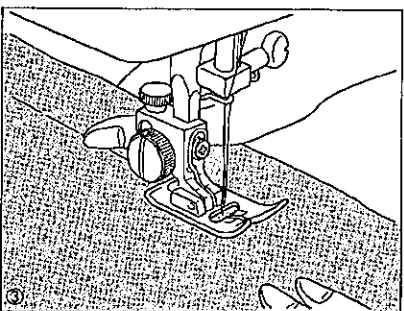
《縫い方》

- ①上糸と下糸を向こう側に引き、押えをおろして縫いはじめる。

※布を前後にピンと張って縫ってください。

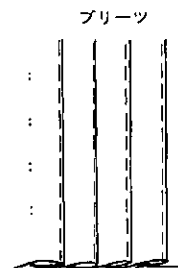
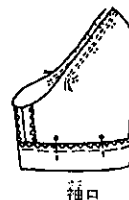
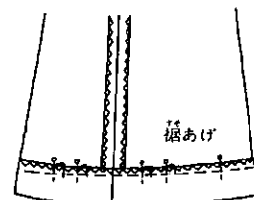
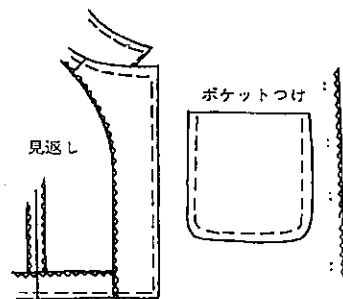


- ②コントローラーをいっぱい踏みこみ、1針縫って針が止まったらつま先をあげる。

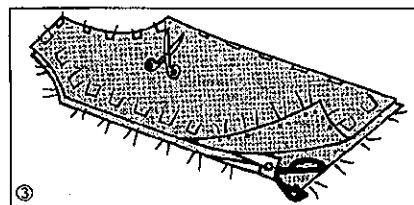
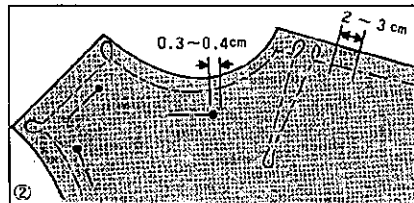
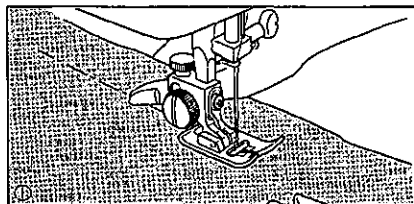


- ③縫い目をつまんで、布を向こう側に手で送り、さらに②の要領を繰り返す。縫いおわりは、指で糸と布を押えたまま、向こう側に引き出して糸を切る。

♣しつけの利用例



## ★切りじつけ



※ミシンの針目が残ると困る布は、さけてください。

## 《縫い方》

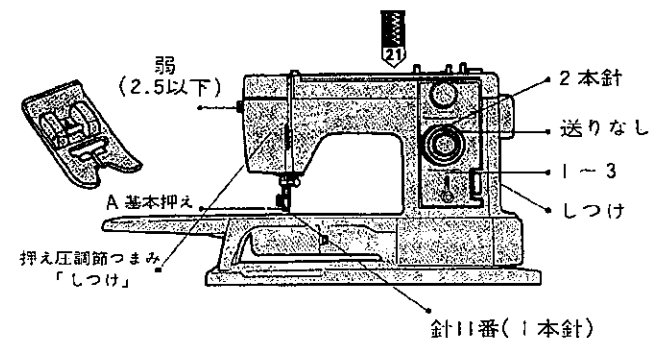
①0.3cmくらいの短い縫い目と3cmくらいの長い縫い目を交互に縫う。

②縫い方向をかえるときは、チャコで印をつけたところを、2針づつ近づけて縫い、かどのところは糸をたるませる。

③長い縫い目の糸を両面とも中間で切り、さらに2枚の布をひらきぎみにして、布の間の糸を切る。糸を0.5cmほど残して切りそろえ、アイロンで押えて仕上げる。

## ★横縫いの切りじつけ

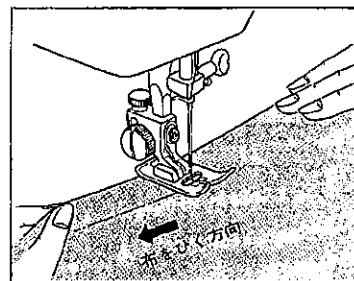
### 《セットのし方》

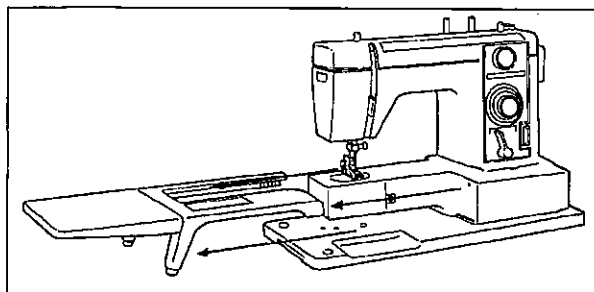


※縫い終わったら、押え圧調節つまみを「3」に戻しておいてください。

### 《縫い方》

はずみ車を手前にまわして、針が左におりるようにする。押えをおろし、布を両手でびんと張りながら2針縫い、縫い目をつまんで左側に手で送り、さらにこの要領を繰り返す。





### 《準備》

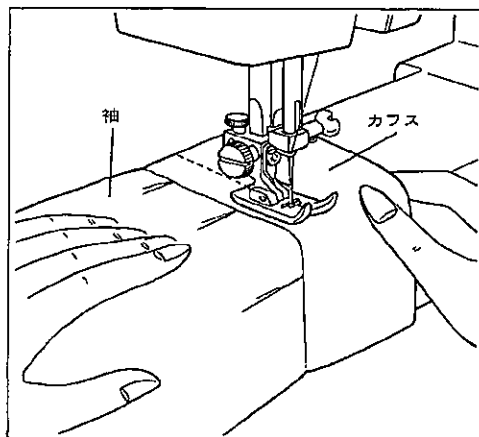
補助テーブルをはずす。

※補助テーブルのはずし方・つけ方は、5ページにあります。

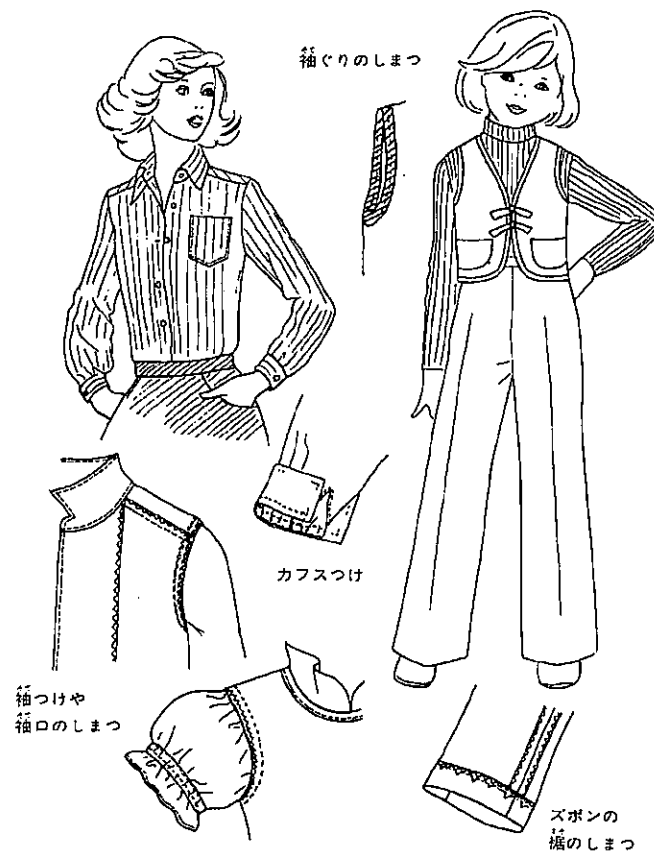
※筒縫いをするときは、フリーアームの下側やベースの上面を乾いた布でふいてください。

### 《縫い方》

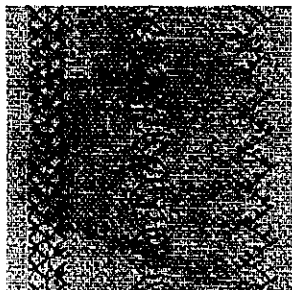
フリーアームに筒部を入れて縫う。



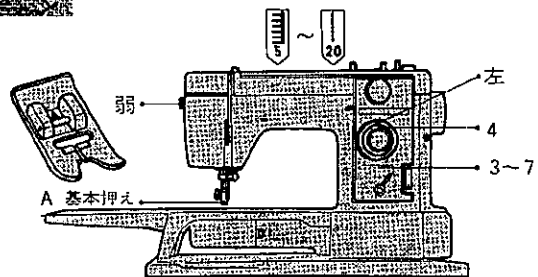
### ♣筒縫いの利用例



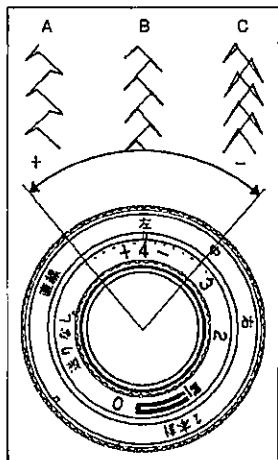
★スーパー模様縫い



《セットの仕方》



《スーパー模様の形の整え方》



模様がかずれた場合は、送りダイヤル 20 の範囲で調節する。

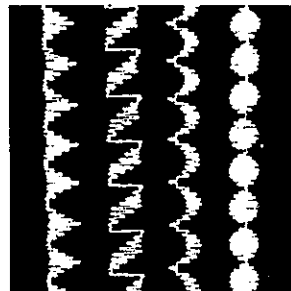
左図の例(模様B)では

「B」が正しい形。

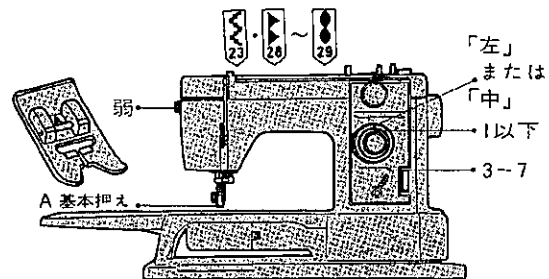
「A」のように伸びた感じのときは「-」側、

「C」のようにつまんだ感じのときは「+」側にまわして調節する。

★密着模様縫い

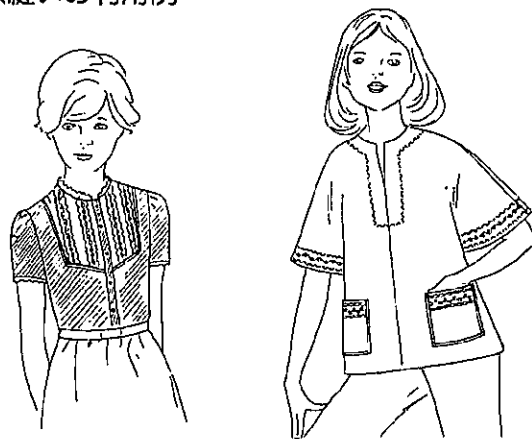


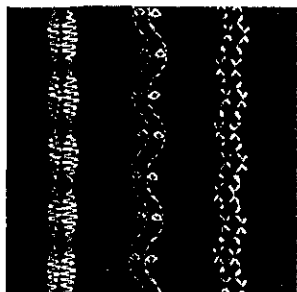
《セットの仕方》



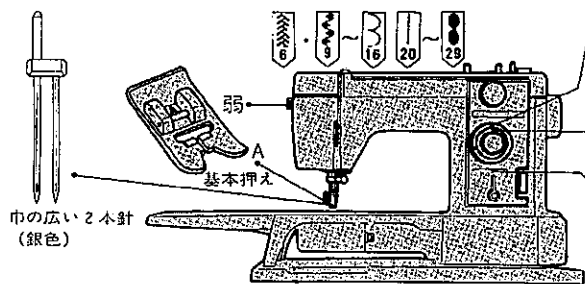
※送りダイヤルをセットするとき、縫い目が細かすぎると、つまることがあるので、試し縫いをして調節してください。

♣自動模様縫いの利用例





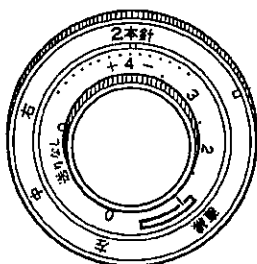
### 《セットの仕方》



- ※針のつけはずしは、ダイヤルのセットをした後に行なってください。
- ※ジャノメ独特の2本針を使用してください。

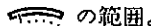
#### 基線ダイヤルのセット

■ 2本針



#### 送りダイヤルのセット

■ 縫い模様 6・9 ~ 16・20 のときは「4」。

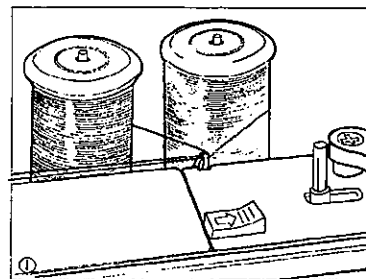
■ 縫い模様 27 ~ 29 のときは、 の範囲。

#### 振巾レバーのセット

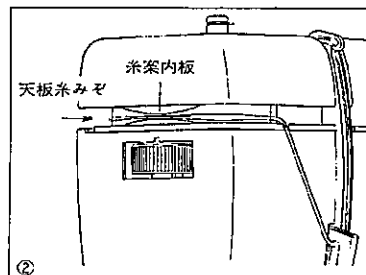
■ 振巾レバーを「3.5」以下の範囲でセットする。

※基線ダイヤルを「2本針」にセットすると、振巾レバーは0-3.5の範囲で固定され、振巾が3.5以上になっているときは、自動的に3.5まで戻りますので、無理にそれ以上動かさないでください。

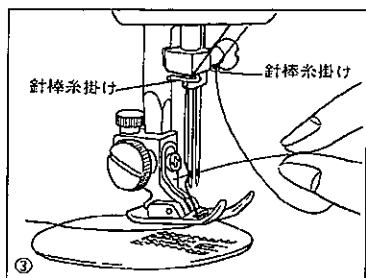
### 《2本針縫いの上糸の掛け方》



①2本の糸をそろえて、天板糸案内に通す。



②天板糸みぞに、糸案内板の上下に分けて通す。

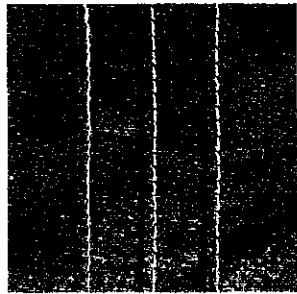


③再び、2本の糸をそろえて、面板糸案内・面板糸掛け・天びん・糸案内糸掛けに通し、左右に分けて針棒糸掛け、さらに2本針に通す。

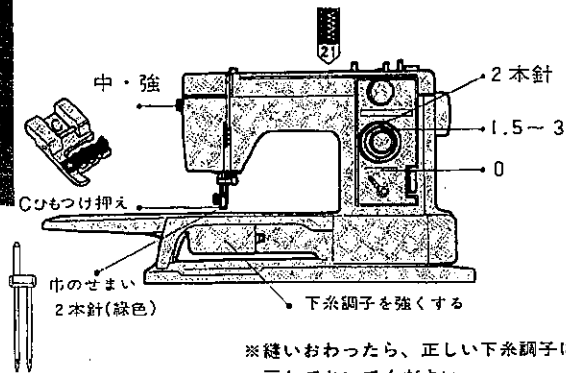
- ※2本の糸は、糸ごまから針穴まで、よじれないように通してください。
- ※かど縫いをするときは、針を布からあげて、布の方向をかえてください。



## ★ピンタック

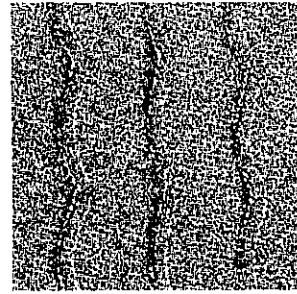


### 《セットの仕方》

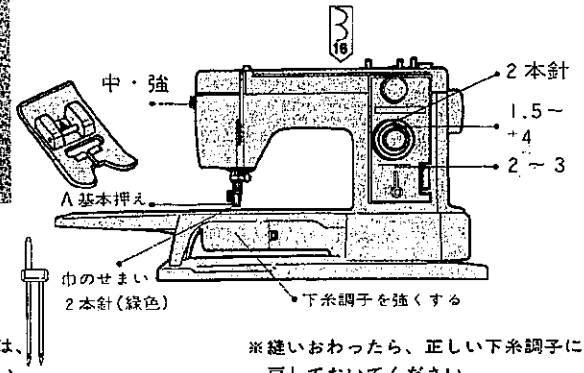


- ※縫い終わった後、正しい下糸調子に戻しておいてください。
- ※下糸調子の出し方は、17ページにあります。

## ★スカラップピンタック



### 《セットの仕方》

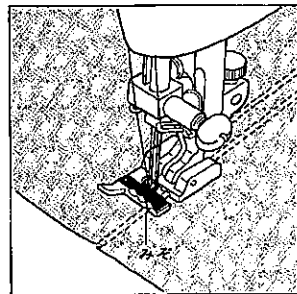


- ※縫い終わった後、正しい下糸調子に戻しておいてください。
- ※下糸調子の出し方は、17ページにあります。

### 《縫い方》

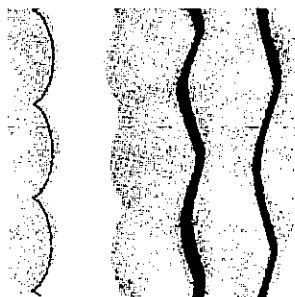
0.4cm くらいの間かくで何本かのピンタックをするときは、ひもつけ押え裏のみぞに、前のピンタックの山を入れて縫えば平行にできる。山を片側にアイロンで倒す。

- ※布を前後にびんと張って縫ってください。
- ※とも切れて試し縫いをして、きれいに山が出るように、上糸・下糸の調子を確かめてください。



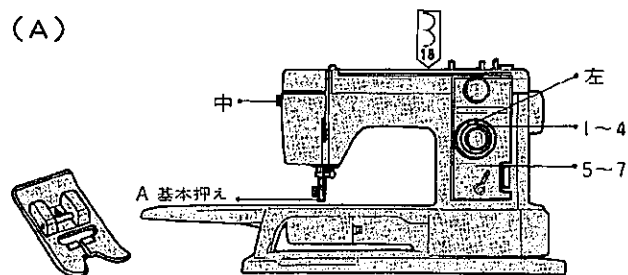
### ♣ピンタックの利用例





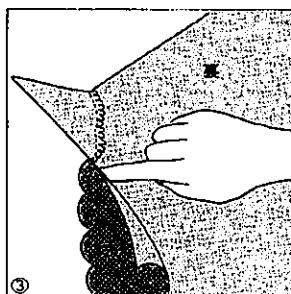
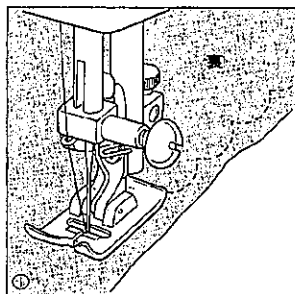
《セットのし方》

(A)

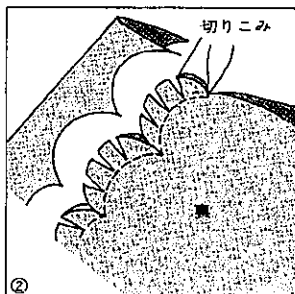


《縫い方》

①布を中表に折り、その端を縫う。



③布を表に返して、スカラップの山を表に出し、アイロンで仕あげる。



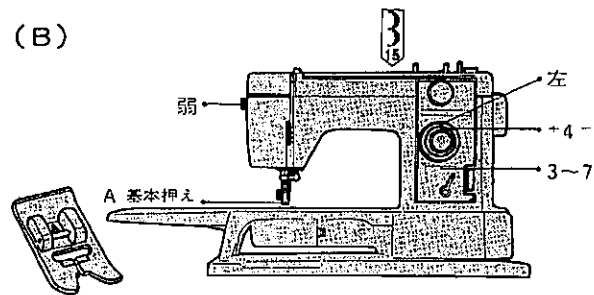
②縫い目にそって0.3cm くらいの縫いしろを残して切りとり、縫いしろに切りこみを入れる。

《送りダイヤル操作でかわる縫い目の変化》

送りダイヤル	縫い目の変化
4	
2	
1	

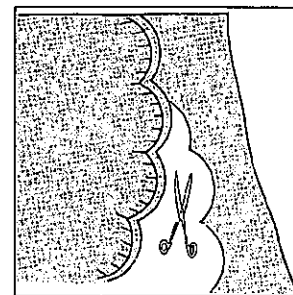
《セットのし方》

(B)

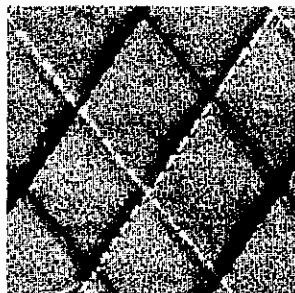


《縫い方》

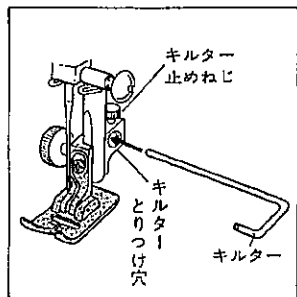
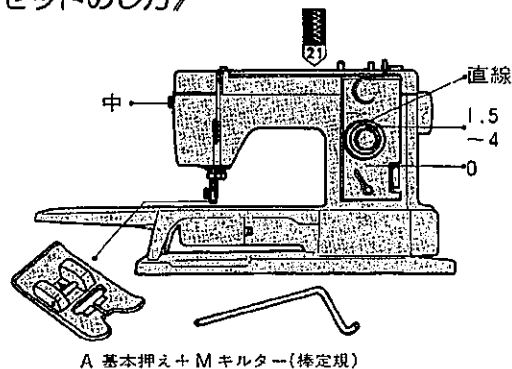
布の表から、布端を1cm くらい残して縫い、糸を切らないように外側の布を切り落とす。



※布は返しません。

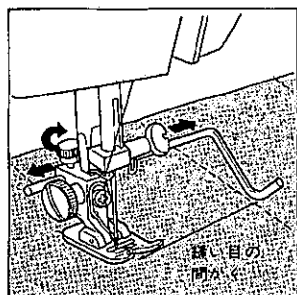


### 《セットのし方》



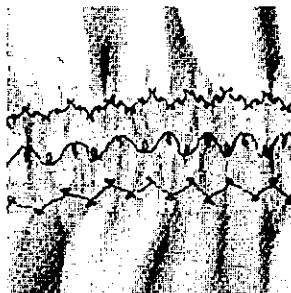
### 《キルターのつけ方》

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)をとりつけ穴に入れ、縫う巾に合わせて止めねじをしめる。

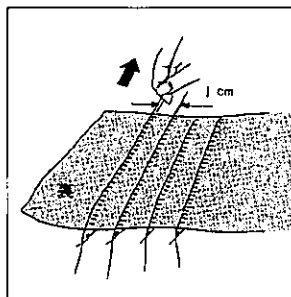
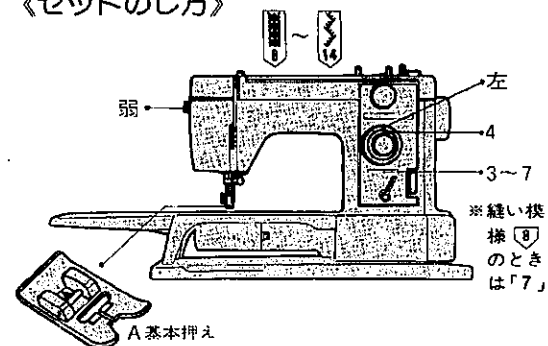


### 《縫い方》

前に縫った縫い目をキルターの先でたどりながら縫う。

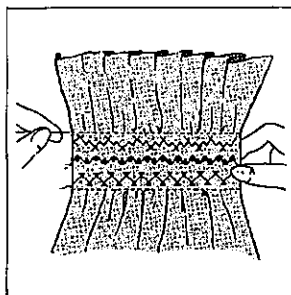


### 《セットのし方》



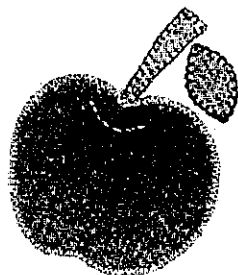
### 《準備》

- ①上糸調子を弱くして、直線で1 cm間かくくらいに数本縫う。
- ②一方の布端の上糸と下糸をむすぶ。反対側から下糸を引いて平均にひだをよせ、よせたひだが伸びないように上糸と下糸をむすぶ。



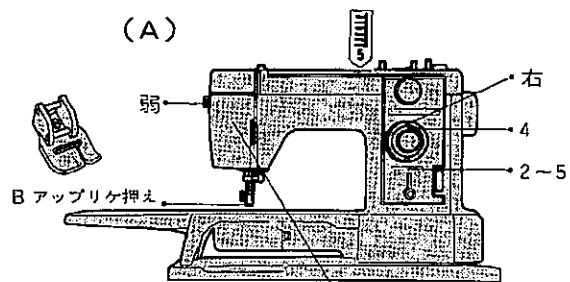
### 《縫い方》

- ①直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをする。
- ②直線縫いをした糸を抜きとる。



### 《セットのし方》

(A)



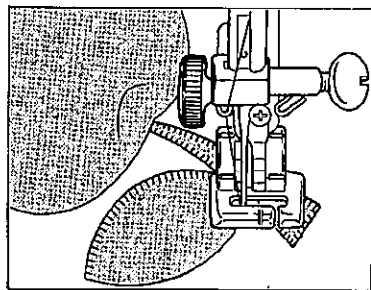
※アププリケ押えのつけ方は、11ページにあります。

押え圧調節つまみを「2」にセットする。  
※縫い終わった後、押え圧調節つまみを「3」に戻しておいてください。

### 《縫い方》

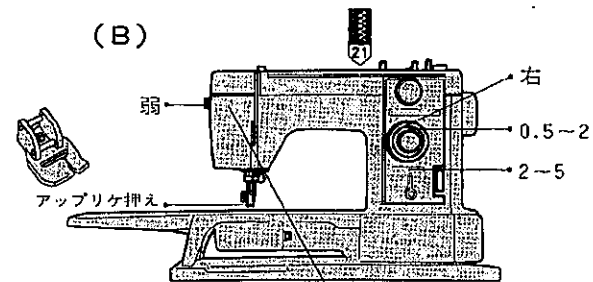
糊づけまたはしつけで止めたアププリケ布のふちを、押えのスリットでたどりながら縫う。

※急角度のところは、針をアププリケ布の外側にさしたままで向きをかえり、きれいに仕上がります。



### 《セットのし方》

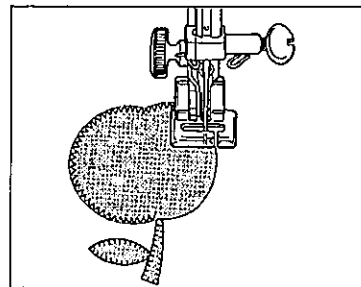
(B)

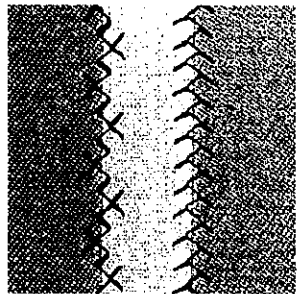


※アププリケ押えのつけ方は、11ページにあります。

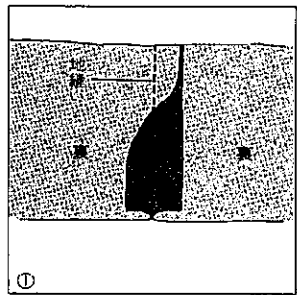
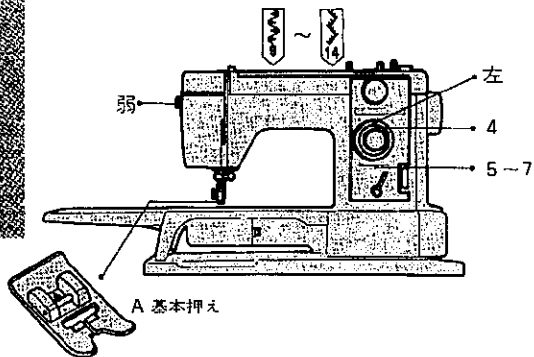
押え圧調節つまみを「2」にセットする。  
※縫い終わった後、押え圧調節つまみを「3」に戻しておいてください。

※縫い方は、模様⑤の場合と同じです。



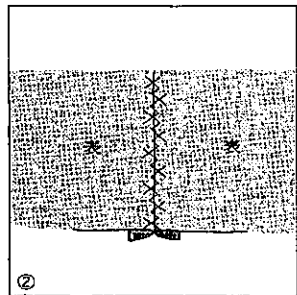


《セットのし方》

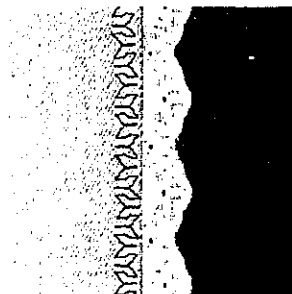


《縫い方》

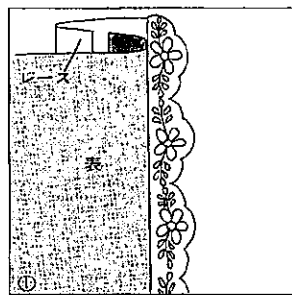
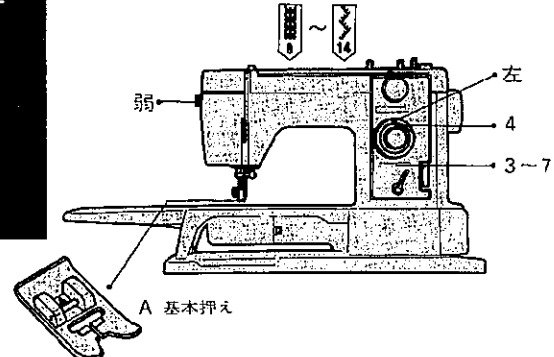
①布を中表に合わせ、地縫いをし、縫いしろを割る。



②布の表から地縫いの線を中心にして縫う。

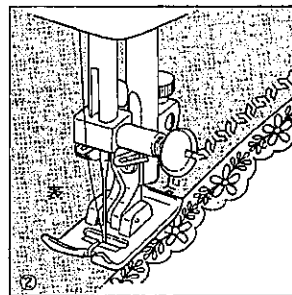


《セットのし方》

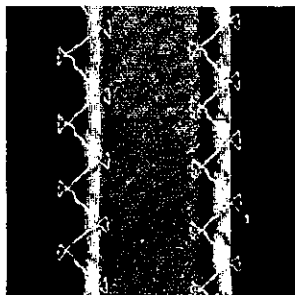


《縫い方》

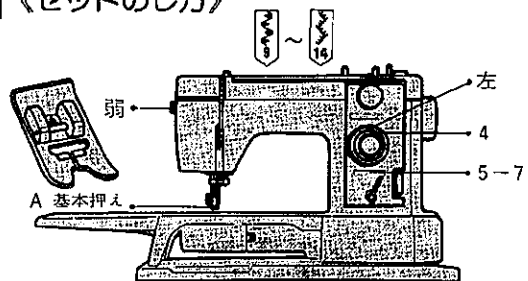
①布端を裏側に、レースの端を表側に折り返して、折り返した部分のふちを突き合わせて重ねる。



②布の表から①の突き合わせ線を中心にして縫う。

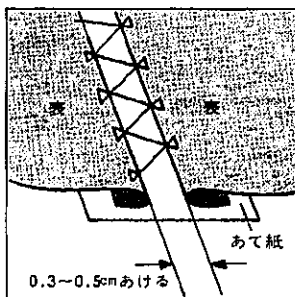


### 《セットのし方》



### 《縫い方》

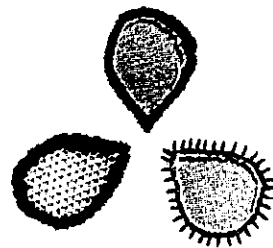
- ①布端と布端の間かくを0.3~0.5cmあけて、裏にあて紙をする。
- ②布の表からあて紙の中央を中心にして縫う。
- ③あて紙をとる。



### 《セットのし方》

模様⑬または⑭を使う。

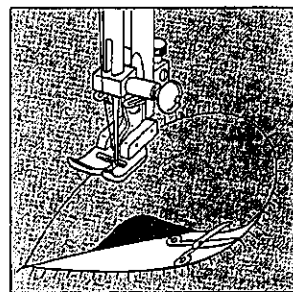
※セットのし方は、43ページにあります。



### 《縫い方》

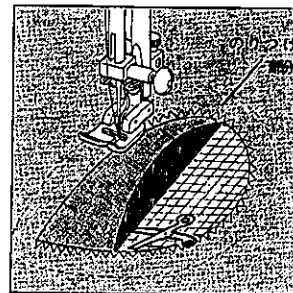
#### (A)

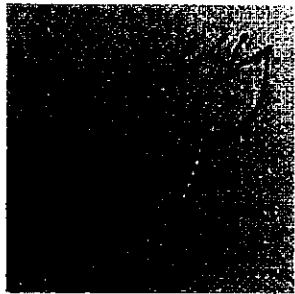
布の表から模様のかぎをかがり、かがった糸を切らないように中を切り抜く。



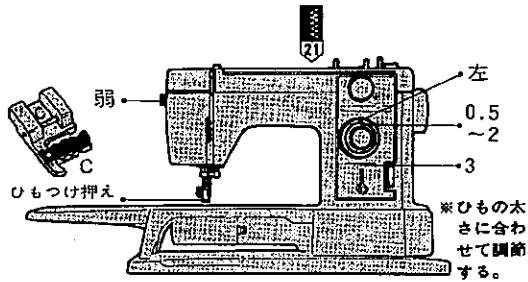
#### (B)

布の裏に模様の内側にはみ出さないように糊をつけ、チュールをはりつける。  
布の表から模様のかぎをかがり、かがった糸と布の下のチュールを切らないように布を切り抜く。



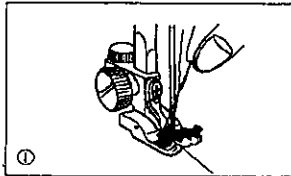


★1本ひものとき  
《セットのし方》

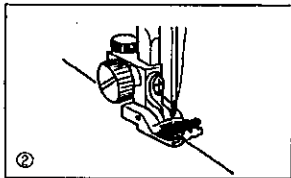


《縫い方》

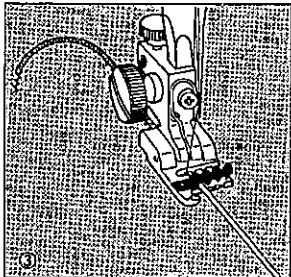
①ひもを、ひもつけ押えのばねの下にくぐらせ、左端のみぞに通す。



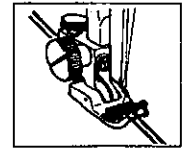
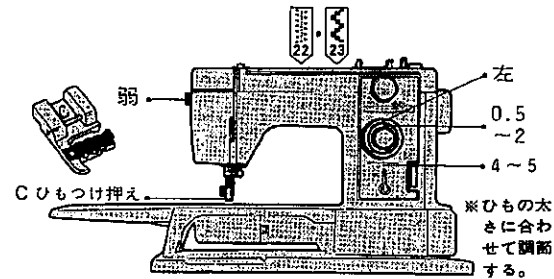
②向こう側に10cmくらい引き出し、押えのスリットから押えの下にくぐらせ、押え裏のみぞに入れる。



③縫い目がひもにまたがるように縫う。

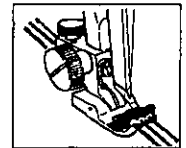
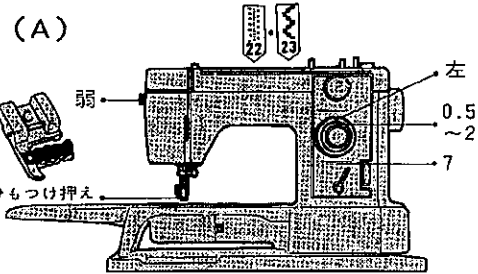


★2本ひものとき  
《セットのし方》

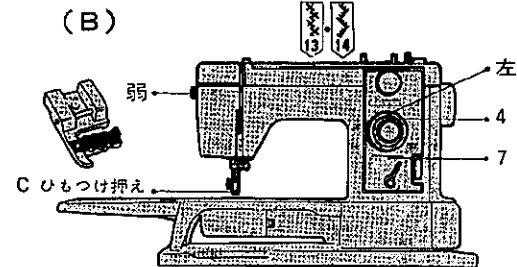


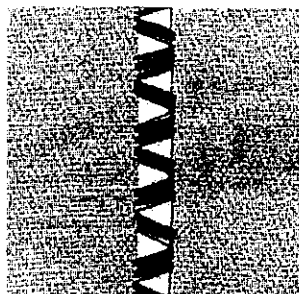
※押えの左2つのみぞを使います。

★3本ひものとき  
《セットのし方》

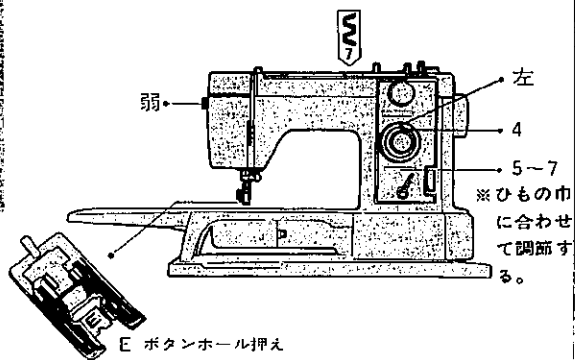


※押えの3つのみぞ全部を使います。  
模様23の場合は、送りダイヤルを「0.5」～「1」にしてください。





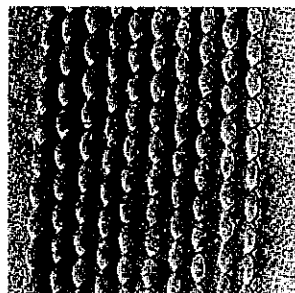
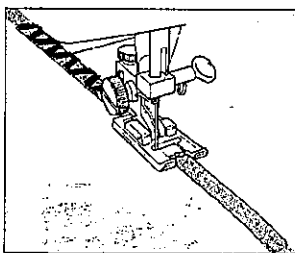
### 《セットのし方》



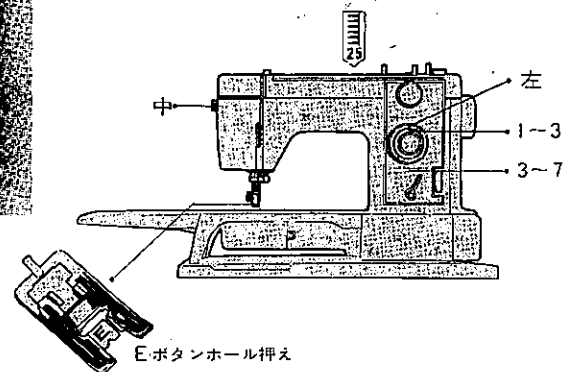
### 《縫い方》

押えのみに0.5~0.7cmのコードやブレードなどをに入れて縫う。

※コードやブレードの縫いはじめの部分、同色の糸で布に止めておくと、抜け落ちるのが防げます。

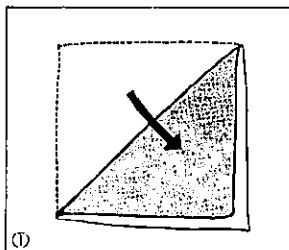


### 《セットのし方》

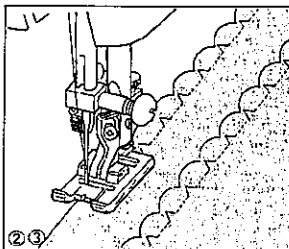


### 《縫い方》

①布をバイアスに2つ折りにする。



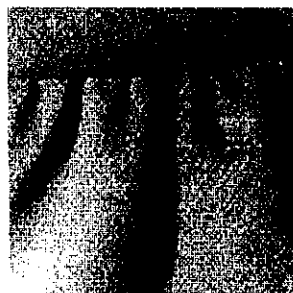
②左の針位置を布の「輪」の外側きわにおりるようにして縫う。



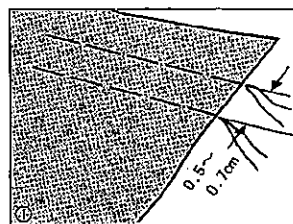
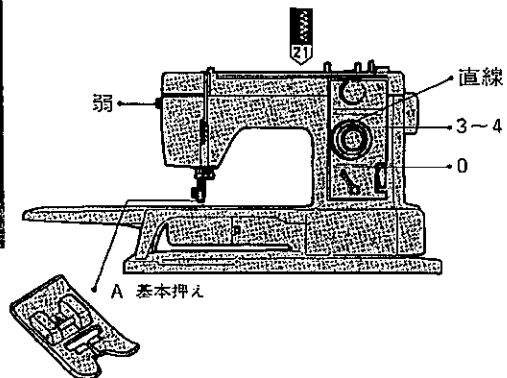
③布をひらいて、山をアイロンで片側に倒す。

※糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにできるように「3」~「6」を目安に調節してください。



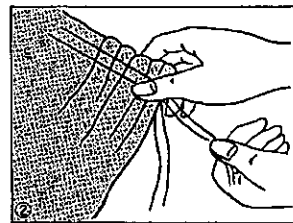


### 《セットのし方》

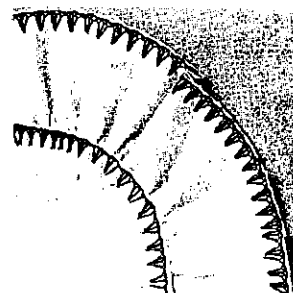


### 《縫い方》

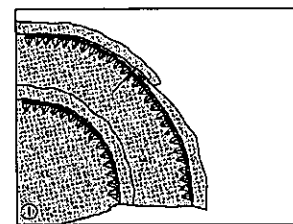
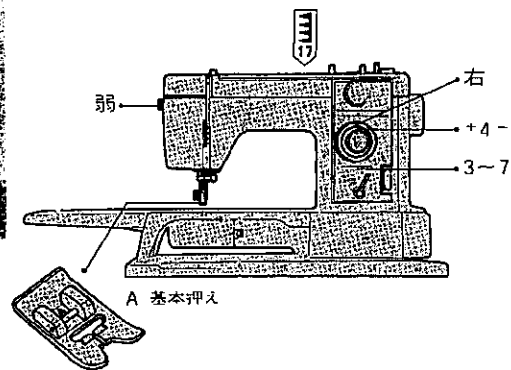
- ①上糸調子を弱くして、0.5~0.7cmの間かくで、2本平行に縫う。



- ②布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引いて、平均にひだをよせる。

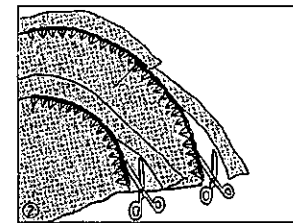


### 《セットのし方》

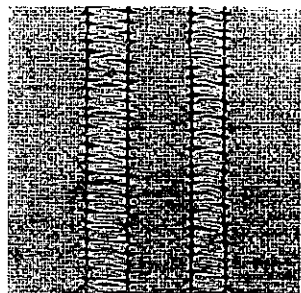


### 《縫い方》

- ①布の表から布端を1cmくらい残して縫う。

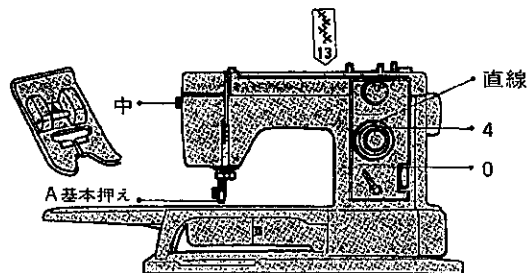


- ②糸を切らないように布端を切り落とす。

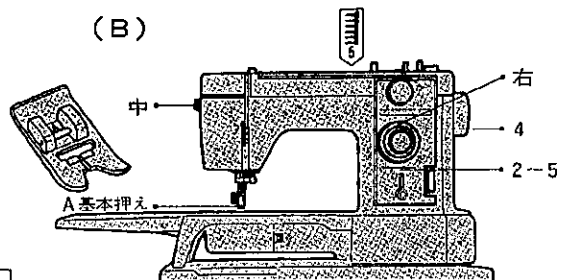


### 〈セットのし方〉

(A)

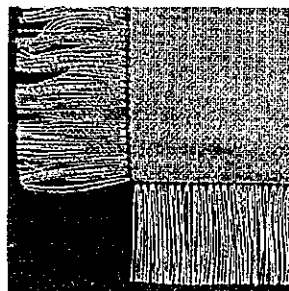
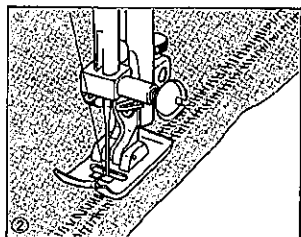
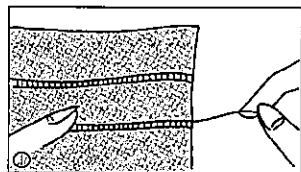


(B)

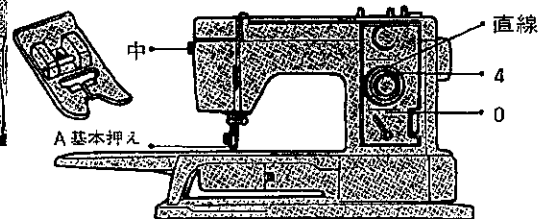


### 〈縫い方〉

- ① ドロンワークする部分の両わきの織り糸を1~2本抜きとる。
- ② 織り糸を抜いた上を縫う。
- ③ ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとる。

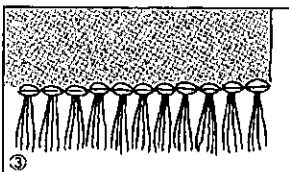
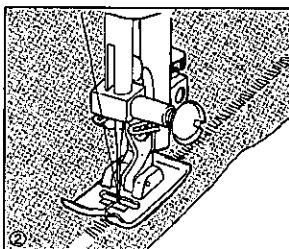
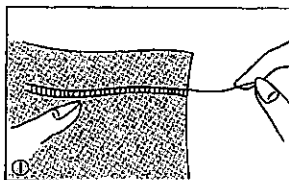


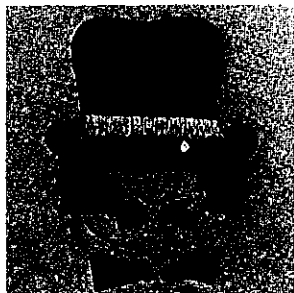
### 〈セットのし方〉



### 〈縫い方〉

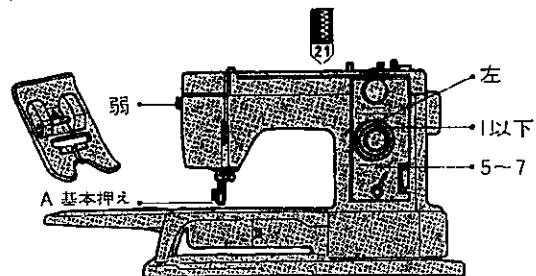
- ① フリンジの裏になる部分の織り糸を1~2本抜きとる。
- ② 織り糸を抜いた上を縫う。
- ③ フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作る。



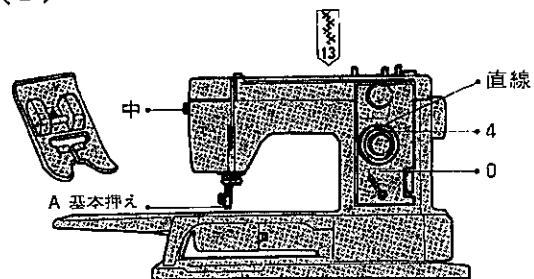


## 《セットの仕方》

(A)



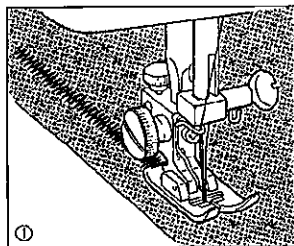
(B)



## 《縫い方》

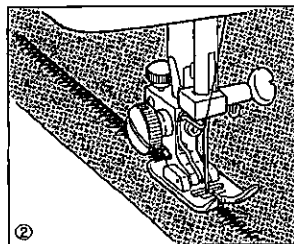
①(A)にセットして縫う。

※上糸が布の裏にほぼ全部出るくらいに、  
上糸調子を弱くしてください。

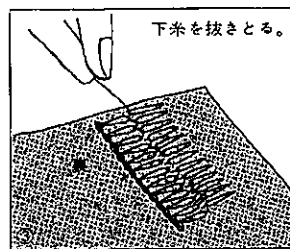


①

②(B)にセットして、①の縫い目の右端  
を三重縫いする。

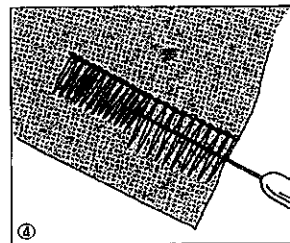


②



下糸を抜きとる。

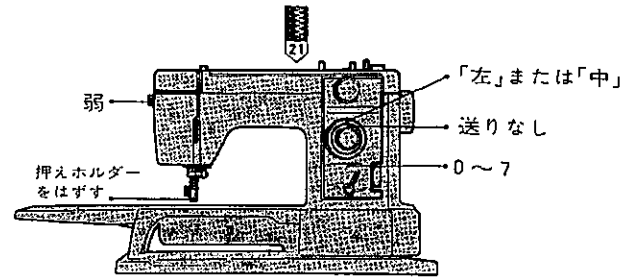
③ ①で縫った下糸を引いて抜きとる。



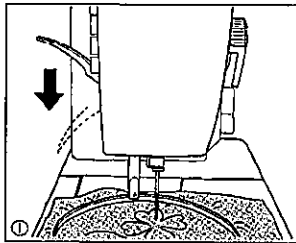
④ 太い針か目ほどの背で、上糸を布の  
表に引きあげ、アイロンで仕上げる。



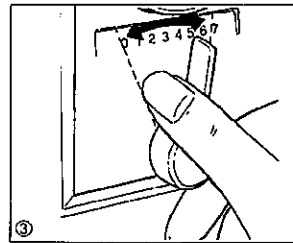
## 《セットのし方》



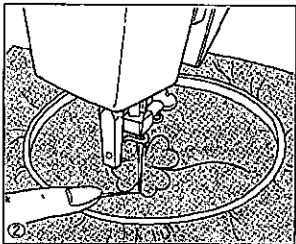
## 《縫い方》



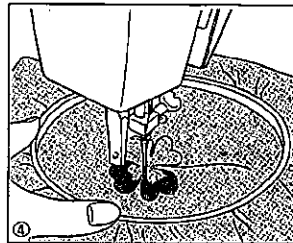
- ① 振巾レバーを「0」にして、上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押え上げをおろす。



- ③ 右手で振巾レバーを操作し、振巾をかえながら左手でしゅう枠を押え、図案にそって枠を動かす。



- ② はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて下糸を布の上に引き出す。左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切る。

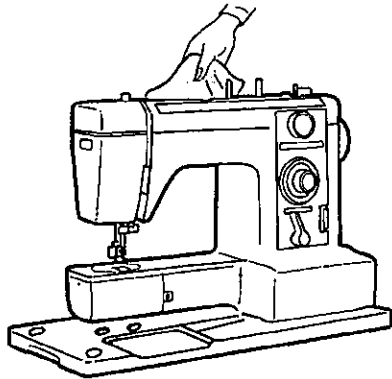


- ※ しゅう枠にはめた布は、びんと張ってください。  
 ※ 振巾レバーは、押さずに操作してください。

## 5 手入れと調整

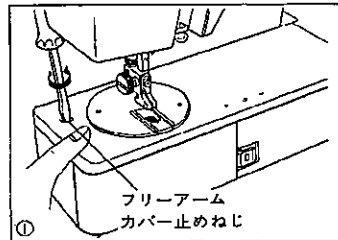
使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも軽快に役立ててください。万一縫い調子がおもわしくない場合は、54-55ページを参照して調整してください。

※このミシンは、53ページに示されたかまの部分を除いて、注油の必要はありません。

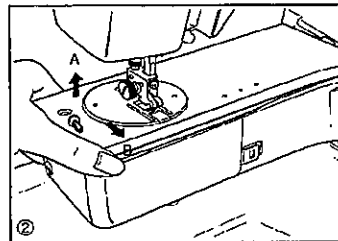


ほこりや油などの汚れは、水をつけず乾いたやわらかい布でふきとる。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとる。

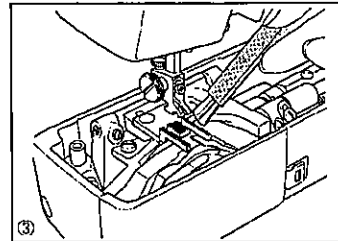
- ※シンナー、ベンジン、みがき粉は、絶対使用しないでください。
- ※ポータブルケースは、直射日光、火気、熱などをさけてください。
- ※手入れをするときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。



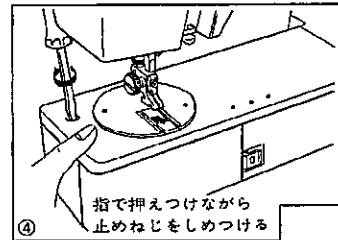
- ①押えと針をはずす。  
基線ダイヤルを「左」、送りダイヤルを「送りなし」にセットして、止めねじをはずす。



- ②フリーアームカバーの左端を持ちあげ(矢印A)、そのまま手前に(矢印B)引いてははずす。



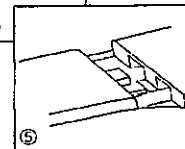
- ③送り歯のごみをブラシで手前に落とす。



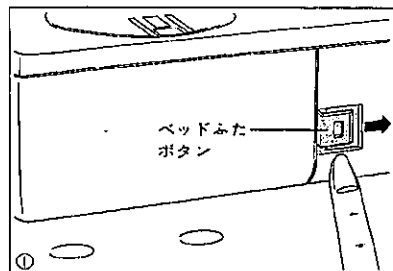
- ④フリーアームカバーの右端の突起を⑤図のように本体にさしこみ、フリーアームカバーをフリーアームに密着するように押えながら、止めねじでしっかりしめつける。

※送り歯の掃除をした後は、かまの手入れをしてください。

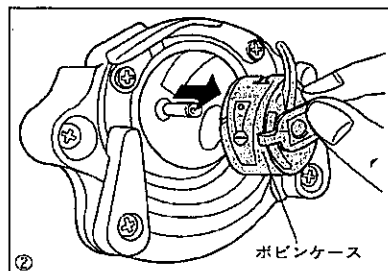
※送り歯の掃除のときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



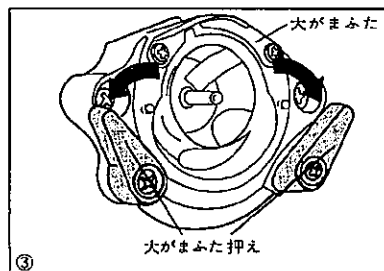
## 《かまの分解》



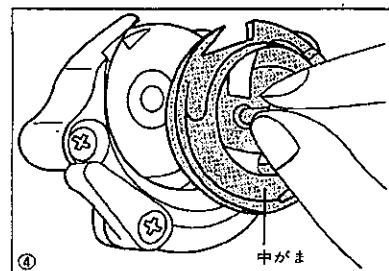
- ① 針棒を最上部にし、ベッドふたボタンを右へ押し、ベッドふたをあげる。



- ② ポビンケースをとり出す。

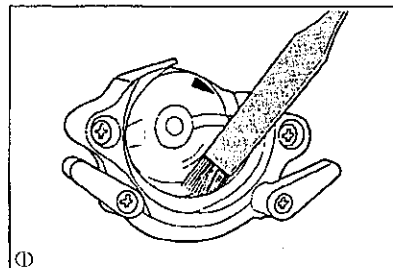


- ③ 大がまふた押えを左右にひらき大がまふたをはずす。

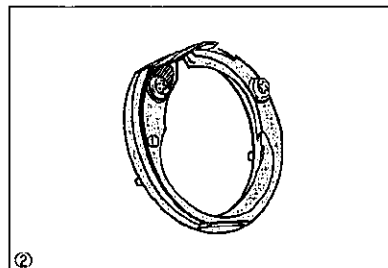


- ④ 中がまをはずす。

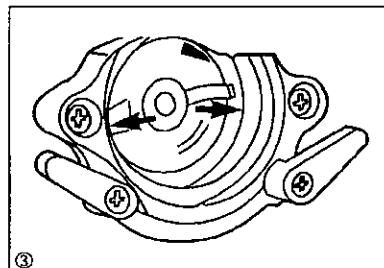
## 《かまの掃除・注油》



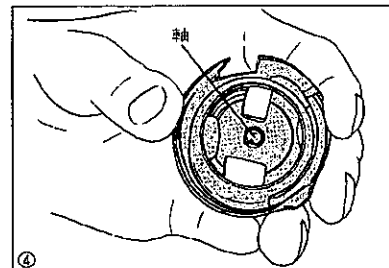
- ① 大がまの内側をブラシで掃除する。



- ② 大がまふた全体を油布でふきとる。

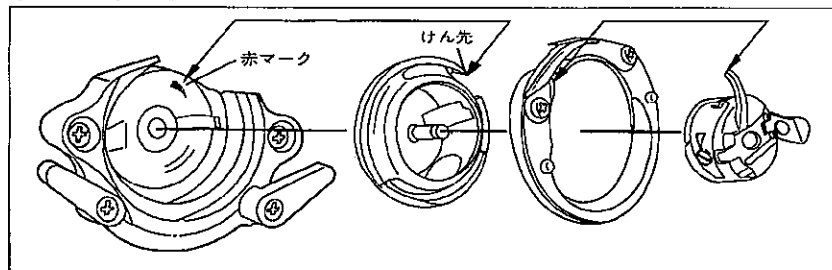


- ③ 矢印の部分にミシン油を1～2滴注油し、布切れで軽くふきとる。

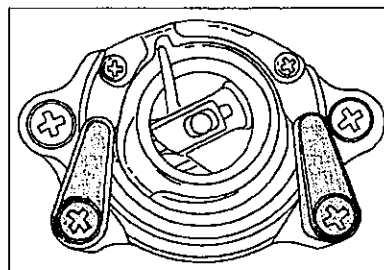


- ④ 中がま全体と軸を油布で軽くふきとる。

## 《かまの組立》



- ① 赤マークに中がまのけん先を合わせ ② 大がまふたの突起を大がまの穴に合せてはめこむ。



- ③ 左右の大がまふた押えをとじ、最後にポビンケースをとりつける。

※油が多すぎると、ポビンや糸が汚れたり糸切れの原因となるため、ごく少量を注油してください。

※ここに説明されているところ以外の個所を分解しないでください。

※電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

調子が悪い場合	その原因	直し方
音が高い 回転が出ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>①かまの油がきれている。</li> <li>②かまの部分に糸くずが巻きこまれている。</li> <li>③送り歯にごみがたまっている。</li> <li>④モーターのカーボンブラシが摩耗している。</li> <li>⑤モーターが故障している。</li> <li>⑥制御回路が故障している。</li> </ul>	<p>53ページ参照 53ページ参照 52ページ参照 直営支店へご連絡を。 直営支店へご連絡を。 直営支店へご連絡を。</p>
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。</li> <li>②上糸調子が強すぎる。</li> <li>③針がまがっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>④針のつけ方が、まちがっている。</li> <li>⑤針板の針穴にきずがついている。</li> <li>⑥縫い終わったとき布を向こう側に引いていない。</li> <li>⑦糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる。</li> </ul>	<p>16ページ参照 17ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 直営支店へご連絡を。 19ページ参照 13ページ参照</p>
下糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ホビンケースに下糸の通し方がまちがっている。</li> <li>②ホビンケースの調子ばねを強くしめすぎている。</li> <li>③ホビンケースの中やばねの中に、ごみがたまっている。</li> </ul>	<p>15ページ参照 17ページ参照 ホビンケースを掃除する。</p>
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①針のつけ方がまちがっている。</li> <li>②針がまがっている。</li> <li>③針止めねじのしめつけがゆるんでいる。</li> <li>④上糸調子が特に強すぎる。</li> <li>⑤縫い終わったとき、向こう側に布を引かなかった。</li> <li>⑥布にくらべて針が細すぎる</li> <li>⑦布に針がさきさっているときに、ダイヤルや振巾レバーなどを動かした。</li> <li>⑧2本針使用の場合、基線ダイヤルが「2本針」以外になっている</li> </ul>	<p>13ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 17ページ参照 19ページ参照 13ページ参照 針をあげてから操作する。 39ページ参照</p>

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がとぶ	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっている。 ③布に対して針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布の場合、化繊針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。	13ページ参照 13ページ参照 13ページ参照 13、22～23ページ参照 16ページ参照 12ページ参照
縫い目がしわになる	①上糸または下糸の調子が強すぎる。 ②上糸・下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて針が太すぎる。 ④布にくらべて縫い目があらずすぎる。 ⑤直線縫いのとき基線ダイヤルが「直線」になっていない。 ⑥押え圧が合っていない。 ※特に薄物を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	17ページ参照 14～16ページ参照 13ページ参照 縫い目をせまくする 18ページ参照 12ページ参照
縫い目に輪ができる	①上糸調子が弱すぎる。 ②下糸調子が合っていない。 ③糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	17ページ参照 17ページ参照 13ページ参照
しつけがうまく縫えない	①目とび……布をぴんと張っていない。	35ページ参照
布送りがうまくいかない	①送り歯のところに糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が細かすぎる。	52ページ参照 12ページ参照 18、20、38ページ参照
電子アイがつかない		直営支店へご連絡を ※なお、電子アイがつかない場合でも ミシンが正常に動くときは、直営支 店の係員がうかがうまで、電子アイ を模様に合わせてご使用ください。

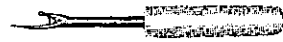
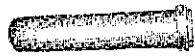
その他むずかしい調整や部品のとりかえは……ジャノメ直営支店へどうぞ！

※ジャノメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本にかかれてある方法で調整できないときは、どうぞ遠慮なく、近くの支店へご連絡ください。

※お問合わせの際は、この本をお読みになりながらお電話くださると、故障の原因や個所が確実に伝わります。

※お電話いただければ調整員がおうかがいますから、必要以上に分解などなさないでください。





目ほとき



ねじまわし(大)



ねじまわし(小)



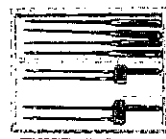
ミシン油



ミシンブラシ



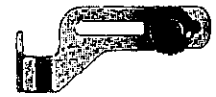
ボビン



針と針ケース



糸立て棒フェルト



定規

カセットするだけで文字が書ける

## アルファベットステッチ

ペンで描くように、すらすらと美しいアルファベット文字がしゅうできます。イニシャルや装飾文字にご活用ください。

大きな……大きな……花模様縫い

## オーバルステッチ

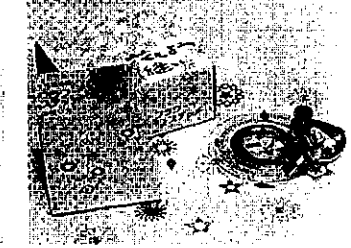
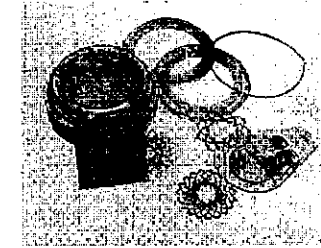
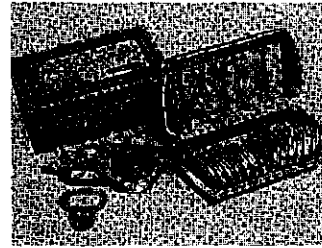
6~7cmの大輪の花が、美しくしゅうできます。布ワクやステッチチャンネルを回すだけで、花びらがいろいろな形にかかります。

くるくるまわってお花がいっぱい

## フラワーステッチ

(花模様縫い)

ステッチチャンネルを回すと、さまざまな四季の花が、あなたの作品に咲きみだれます。使い方もとても簡単……どなたでも楽しめます。



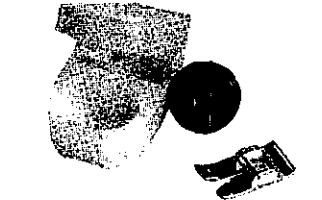
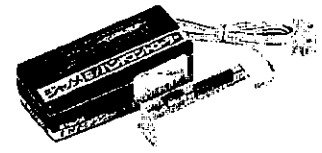
簡単にセットできる押ボタン式

## ジャム<sup>TM</sup>ハンドコントローラー

縫いはじめも、縫いおわりも指でボタンを押すだけ。はやい、ふつう、ゆっくりの3段階のスピードを電子がコントロールします。

## チェーンステッチセット

装飾縫いや仮縫いにピッタリのチェーンステッチ専用の押えとルーパーがセットになっています。





世界のミシン専業メーカー

**ジャノメミシン**

蛇の目ミシン工業株式会社  
東京都中央区京橋3-1-1 TEL.(3277)2200